

の由間天をい給ふ

一 豊岡大藏卿を拜賀に附むさい一もこ進上り樂もん所を承り對面成土御門民部卿を二種一荷進上交野宮内卿を拜賀に附むさい一もこ進上一御炎上後關東より一万金由道具料を去るんおとしましは其節外々泡りさえも由す不きゆさゆの由殘金大閣泡取計にて口向え由預ケるふをのゝ所今年までそのまゝにてされも拜借致は人もなくはゆへ當春はとりもとしに成昨年を異國此事に附り表の衆はろくは用多勤のゆへ右之金子にて夫々を褒美給りは五千兩はつりひもさしに相成は此内は残り金三仲間廿二人へ金五兩つゝ下されは雇え三兩つゝ新座の由雇え小子二兩つゝをつりさ仲居四人壹兩つゝ内侍所さい初は三兩つゝ下されは

十九日

一 准后泡今日由祥忌にて由引にくるふをのゝはくおし系る由使越後ぬ

一 仁門泡由行に附り尋よすみ形はるうりん十棹奉書にて旨

廿日

一 飛鳥井侍從を拜賀に附二種一荷進上り三間にて由對面申口を承天をい給ふ末のしゆあも事母所勞にて下りは萬事なりく所勞の所昨夜死去致はよし尾張を申入のゝ口向ハ尾張を取次え申出は

一 此度佛華光院宮泡若きしゆちそつ願願之通り仰附のゝ名ハ妙成院と申事右に附銀十五枚長橋泡をお八百泡え由戴ふりせ之

廿一日

一 御拜有神宮内侍所由法樂小御所え出御成よ乙上ケ有

一 廣橋左大辨宰相を拜賀に附二種一荷進上り三間にくは對面申口にて天をい給ふ

一 准后泡今日由系泡え由桃色の由とんぼ丸すゝし由戴は之

廿二日

- 一 御拜沙無岩清水法樂小御所へ出御成よ乙上ケ有
- 一 佛華光宮泡也空ふ供養ニ附
- 一 准后泡也也一筒クハ能登る使ニ系ハ此十七日申下刻ハ關東本丸ミ取ハ出燒の事傳奏衆言上右ニ附召の料紙也すハり也此屏風一雙玄んをハヤ伺有

廿三日

- 一 よハ少々也り泡也て飯床也本の茶也口切也風氣にて樂も
- 一 所の對面也沙無
- 一 祐宮泡ハ今年召にてハる也
- 一 准后泡も也系り也一所ニ膳後段も出る敏宮泡和宮泡也不系也膳也一通り也ハし也茶系る
- 一 准后泡祐宮泡より也看一折つハ上クハ兩宮泡也看五種也組合て上クハ知光院泡蓮正院泡召て也看一折進上る也正院也する

一 折進上不系之知光院泡也系り蓮正院泡ハ不系之今日觀行院泡也系り合て知光院泡ト一所ニ對面成申口にて也料理後段も也一こん下され也

- 一 敏宮泡也内ハ也す板二枚上クハ准后泡也也綾一ハん
- 一 祐宮泡也也ちりめん一反クハ
- 一 兩宮泡也也綾一反つハクハ
- 一 夕リ也一こん出る也下の也看三也ち也重看也也一對也名酒也表え出ス非藏人え也燒二也ち出フ也ハし

きんしほめ白ひとふ

水も多に霜紅梅こんぬ

廿四日

- 一 衛門内侍泡今日薄清よく也成御機嫌伺クハ宮泡もハる也也へ別
- 一 教仰出され也めて度也上り右ニ附也ハ御一多也也看一折也てうし一

枝進上准后泡え

こかく御一寄さ泡比し進上

一兩宮泡え同斷進上大すき泡長橋泡え与ぬ駿河との大乳はこかく御一重つゝ按を端のすき泡初え二桶にて申口え出る

一兩宮泡え返し泡ある二ゆひつゝ頭々よりするゝ三連つゝ進上申は按を端のすき泡初えするゝ五連系る此程思召泡にて泡戴の泡衣大すけ泡初著用致泡礼申入は

一奥も泡弁とふ准后泡も泡弁當女中も弁當之夕方泡一こん泡賑ゝ之

廿五日

一うへ松大夫ぬ元服ニ附二種一荷進上泡對面ハ泡りて心泡ニち沙ゝ無申口にて天そい給ふ

一有栖川中務卿宮泡を廣橋左大辨宰相ぬえ能書りゝの泡傳しゆ來月五日泡伺るゝをのゝ伺え通り五日巳刻と仰出されは

廿六日

一泉山え泡代香泡表より泡香泡そか皆

廿七日

亥子ニ附例え通り泡きんしやう出されは参善宮泡泡箸初段々泡延引ニ成クのゝ今日泡祝るゝをのゝ内侍所え泡鈴泡初尾金百疋泡看一折泡使表使系る泡きん上泡ま取一折衛門内侍泡泡口上にて上クのゝ准后泡えも同斷えんをのゝ泡使若まし泡皆

一上御靈社え泡そつ本百疋非常附使番者泡祝泡え侍の赤の泡りゆ泡七夜のをつり取らし泡青石を泡りゆのむらふよ附おそりより上る泡をいさん少將内侍泡泡系り泡祝き二百疋下されは尾張え百疋被下は今日より日々泡をいさん若ましゆ末の衆え申出しニ系る

一兩大すき泡長橋泡え与ぬ駿河とのするゝ一折つゝ五連新大すき泡長橋泡ハ泡重服也へ明日進上大泡乳ハ今日ハ内々祥忌也へ明日するゝ

三連上る宮泡りさえハルり私にては多計にては祝仰入の^レ准后泡方
 一着^レ一折^レよを看^レ人形一そこまをの^レ御所よりも一折^レ人形
 一そこ^レの^レ宮泡成ふをの^レ口祝^レこんぬもにては盃系る
 一飯床にてあひまの^レ間にて出る
 一衛門内侍泡方する^レ三連進上
 一叔世院泡^レ局は世話^レ系り也へは認一寸^レ一こん廻し候^レは
 一用掛り系り合^レ祝^レ一こん被下^レ
 一里方三位^レ叔世院泡^レおあつ泡よりする^レ三連つゝ上^レるゝそのま
 一返^レ下されは^レ大^レすき泡
 一駿河とのえそのま^レ返^レし^レ被下^レ
 一夕^レの^レ盃^レ飯床にてあつをの^レ女中^レ汁^レもちた下されは^レ通^レり有男
 一さめし不申^レ表^レえ仰出されは^レ被遊^レ女中もつ^レ申さる

廿八日

一朝^レ盃^レ新大^レすき泡^レ大^レ乳より^レ夢^レ宮泡^レえする^レ一折^レつゝ上^レる
 一佛華光院宮泡^レ百^レヶ^レ引^レ上^レヶ^レ附^レ准后泡^レえ^レ一折^レ看^レ關白泡^レ方
 一^レ折^レ上^レヶ^レ准^レ后泡^レより^レ菓子^レ一折^レ上^レヶ^レ今日^レハ^レ代^レ香^レこあ
 一^レより^レハ^レ沙^レ無^レ雲龍院^レえ^レ兩^レ大^レ長^レ橋泡^レ金^レ百^レ疋つゝ大^レ乳も同
 一斷^レ上^レる^レ按^レさ^レちの^レす^レき泡^レ初^レか^レ五百^レ疋^レ香^レて^レん^レ上^レるゝ大^レすき泡^レの^レ局
 一^レ出^レる

廿九日

一今日^レ午^レ刻^レころ^レ夢^レ夢^レ宮泡^レ事^レ堀川^レえ^レ成^レふ^レせ^レの^レ與^レハ^レい^レら^レう^レ一^レは
 一^レる^レり^レの^レ夫^レ方^レの^レま^レく^レま^レり^レ仰^レ出^レされは^レおも^レて^レ向^レハ^レこ^レし^レにて^レは
 一^レへ^レ新^レ大^レす^レけ^レ系^レり
 一酉^レ刻^レころ^レは^レは^レく^レま^レり^レ出^レ來^レお^レあ^レし^レにて^レ成^レふ^レを^レの^レ世^レ話^レハ^レ初^レ三^レ仲^レ間
 一も^レ供^レ系^レの^レ神^レ事^レ入^レ也^レへ^レ門^レ前^レま^レて^レ系^レの^レ此^レ度^レ又^レ々^レ三^レ位^レえ^レさ

ふに預け成ク

一三位ぬえ絹一疋金五百疋

一刑部大輔ぬえ三百疋被下

一叔世院ぬえ絹一疋金五百疋

一おのぬえ金二百疋の板ののおもし八重岡え二百疋紫の帯をもしぬえ人形さんちやく袖入一ツ役人初え銀二枚下され

一夕りさより神事入て敏宮ぬのに下り遊しぬ所神事中少々使かむつりしくをふさのゆへをふく遠々思召クのくを看三種のくしは品を紅一疋紫染おもしの板ののおもし男紙入二小町形紙入二三とく紙入壹ツ人形壹縫取煙草入二ツりんさし二本をさを一本袖入二ツ殿中半汁十の小辨當一もこをえをふ一もこを看五種を准后ぬの申刻比に下り

一に今系ぬ長橋ぬ衛門内侍ぬに契ぬもハらりにく下る、

一准后ぬえ御下りに附に看三種をくをし二色系る夕りをかを神事入惣火りハるミ能く湯致

十一月朔日

一寅刻齋火御飯くうしのやに兒りさにて伺有くうしの様仰出されぬ采カ家女二人廻るくうしおもり言上出御を飯床中にて沙は無内侍少將内侍をとへ衣をあら廻りぬ

一今朝を心卯刻に飯床をさひ仕舞被遊に神供に無人に附内侍所に附のさふ初穂百疋をはくはる代系宰相の侍に系り朝の盃を朝りをるくうしの宰相の侍に少將内侍に能登る系賀に對面に成に附に兩人を茶口切に附に茶一もこ宛るもし一折つ、きん上夜に入に赤物出御の所に用心にて常御所にあらせぬいはさん宰相の侍に手長少將内侍に役奏越後に五衣髮上に越後に朝りをる廻る、

一こよひの由盃由三こん旨由三こんめ少將内侍泡由酌之女中男りよ由通り有

一大すき泡由下りて上合のゑもし下され由

二日

一正親町三条大納言由拜賀ニ附二種一荷進上由三間にて由對面成くはの由間にて天を由給ふ

一東久世少將由拜賀ニ附をよい一そこ進上清水谷ゑのむくは木大らゑ出こかよ由はゆし枝にて由そんしニ成枝をよひ由事傳奏衆を關白泡え伺ニ相成ゆへも此木神木ゆへ由さゝかりニ成ゆても由よはしりよ由吉田ゑ由祈禱仰附ゆへも由よろしくやと申入ゆ傳奏衆え伺之通りと仰出されゆ祈禱の由初尾二百疋

一清水谷ゑ出されゆ是よりハ枝拂ゆとも由祈禱ニ及不申ゆ由傳奏衆を申入ふきゆ

三日

一と罷し

四日

一賀茂下上社由法樂小御所え出御成よみ上ケ有由用心泡にて由湯由沙よ無由清め之此度關東出火ニ附廿七日方内侍所え一七ケ日由祈禱仰附ゆ今日由乙てにて由くはゆ由取上るゆくは傳奏衆方口向にて由箱申附ゆ奥え上りゆ由箱えゆくは入ゆ傳奏衆え越後ゑにて出されゆまくに所司代より關東え系りゆ由之此ゆそこハ
一白桐りぬを多よ白の丸も多傳附之

五日

一今日有栖川中務卿宮泡より帥宮泡え能書方由傳授にて由看一折つ、由父子泡より上ケゆ
一御所よりも由父子泡え由看一折つ、奉書ニゑ由正親町大納言ゑ中務

卿宮泡方傳授廣橋左大辨宰相なも同斷傳授たをの中務卿宮
泡方の肴一折奉書をては父子泡方の肴一折つゝ上クの正親町の廣
さしな方の肴一折つゝ進上

六日

一 夕方春日祭の丸火入をる

一 内侍所のえはまはるは初を銀一枚を系るは行水はくしの湯は今日の神事
罷り修日の精進を

七日

一 春日祭の當はくしはりき物はりけは硯は五百疋は祐宮は二重は手はさきを
二百疋は上クの

一 孝參宮は御視をるは二百疋は上クの紀州は蜜柑つりみんは空は酒はきん上
有

八日

一 夕方少將内侍泡今日一日はまはさしつりへにては下り之

九日

一 今朝少將内侍泡は上り之

一 御拜有内侍所の當月のは系り有銀一枚は准后泡今日は清く成クのは午
刻は上りにては肴五種は上クの女中はえとてはるくうはん下されは

十日

一 御拜有内侍所のえ九月分のは系り十月分は系り有初尾銀一枚つゝ九月
分は肴一折を

十一日

一 内侍所神宮の法樂有は小御所のえ出御成よみ上ケ有

一 和宮泡のえ新嘗の當夜はまはくしをはしはり一はん紫板はおもし一はすしを
の板は同斷の附帶一はすし男紙入二組小町形二組てん中は煙草入十は盃
三枚は人形二は袖入二男煙草入三組縫取煙草入二組はまはをは一本花は

ゆらんさし一本をうち一本はさんちやく二つをんをぬ

一新嘗の當夜の系役仰出されぬ

一劍内侍の少將内侍の種内侍新内侍のゆもいせん采カ宋女大乳をんとり越
後ぬ 尾張のあゝ

一采カ
て宋女梅

あゝあは

ふせ事ハ

所勞にて申断申入ぬ

縫司右京大夫のし役をる

一供奉命婦能登ぬの登ぬ大すけのゆを仰附ぬ尾張初ハ大乳より申渡ス

縫司ハ大すけのゆを申渡之御絹一疋つゝ取ぬ下されぬ越後ぬ大乳は

ゆ絹一疋つゝある下されぬ外ハ取ぬ百目つゝ下されぬ

一昨日ハ初雪にて所司代が登後一折きん上知行の初尾

一大すけの宰相典侍のいよぬ大乳を
きん上

十一日

一夕ちの丸火入内侍所への鈴着ゆくしの湯は行水着宰相典侍の手あ
しにて脱カ下りぬ

一役の人々神事入のゆ夜しよくかの精進無女中も精進無

十三日

一今日膳の丸火中ゆへの精進は沙の無女中衆も精進無

十四日

一新嘗の當日に附内侍所へのゆある着ぬ初穂銀一枚の鈴着越後ぬ大乳
よりゆすゝ上るゆくは上る准后の今朝は下りゆ丸火中ゆへをんをぬ
物は沙の無

一ゆ當夜に附敏宮のえは雑煮屋より廻し候和宮の祐宮のえは雑煮着酉刻
前ゆ表くし

一酉半一刻まへ湯者出御成刻きん出る系役大乳としめ廻りは中入
 亥半刻一刻前よりつと出御子刻湯者入御うしは半刻過寅の刻きさ
 いの出御成はさいさん大すぎ少將内侍能登るに賀るに申するく
 と濟をのく丸火解らまは神事中之こよひのくし晝のうち被遊は
 内御くし成

十五日

一神事せきの准后は上り花上クのく神事解に附は肴一折上クのく
 一宰相典侍は今系泡り丸は上りはこ進上酉半刻過節會くし表
 方言上有初夜前出御成 劍内侍少將内侍泡聖内侍新内侍泡命婦能登る
 伊賀るに
 入御亥半刻神事中無人に付宰相典侍は庭は煙草本よ紫は縫
 のおもし下されは
 一大すけ泡え庭は煙草本よろしはきまを一本

一少將内侍泡えあふり手はふり紫縹子おもし

一新すぎ泡えはかりんは一反毛うへ一ツ

一新内侍泡えは紅一疋は文ちん一對常丸なえつとを紙入一組は水入一
 ツは無人の褒美よ下されは

一今日り橋を拜賀に附はさい一箱進上

十六日

一今日別當典侍泡薄清にて御機嫌伺有奉書出されはめて度は上り之新大
 すき泡長橋泡衛門内侍泡は上り之梶井宮泡は誕生日に附小はよま一
 多はこんぬ一折はてふし一枝上クのく

一仁門泡は行はするくと濟をのくこ和く湯一多は上クのく所司代より
 月次は肴一折きん上輪門泡は二方より神事解こんぬ一箱つと座主宮
 泡仁門泡はこんぬ一折つと上クのく

十七日

一野宮鶴丸ぬ東園まほ丸ぬちるく元服に附見致し乙に内々係り也
 對面成也手つりふ也末をろ一本つゝ也紙入一也硯水入下され也
 一祐宮泡が鶴丸ぬえ也絹一疋下され也おもりの宮泡が也袖入壹也人形
 一ツをふうちりんさし一本下され也敏宮泡が也使に花崎系ゆ御機嫌
 伺々の也看上ケの

十八日

一今日也香具の也認大すき泡初也戴之こよひ御靈社也火ふたに御こし
 也也間にて有

一來ル廿八日玄んきんの也茶也口切仰出され也

十九日

一光格天皇様也祥忌に附泉山え也代香長橋泡也系り也香也花也備への
 也くぬし也心さし有也法事料銀十枚出され也

廿日

一御拜有賀茂下上也法樂有小御所え出御成よ乙上ケ有

一知行の也初尾新大すき泡別當典侍泡長橋泡越後ぬ方進上新大典侍泡別
 當典侍泡なり橋泡ハ也重服にて内侍所ハ上ふをばこあ計之

一大坂の鑄物師よりあふりも舟形の也燈籠壹雪見燈籠壹ツ柳原ぬ方也
 傳きんにて女房の奉書也願にて願之通り出され也

廿一日

一今日新内侍泡也上り後方初て也神系り也願にて也下り之大すけ泡初方
 也看也精進まちり五種めて度系る新すき泡也事當分之典侍泡免をゆ
 本の也雇ふ仰付ゆ儀奏しゆ心ぬも仰出され也口向えも申出る

廿二日

一野宮大夫ぬ元服に附二種一荷進上也三間也對面申口にて天も給ふ

廿三日

一知行也つ本少將内侍泡衛門内侍泡能登ぬぬ登ぬ方進上子祭りも附准

后の大黒泡

一 敏宮泡和宮泡祐宮泡

一 参参宮泡大黒泡の糸りにて夕りこのあとのと一所にて祭りにては樂
は聴聞女中のも一所にて聴聞有

一 このあとの大黒泡えは備え上る四辻を召されは糸有すミクの申口
てこのあとの祐宮泡参参宮泡の大黒泡えは備へ上るは跡堀川えは廻し
成は所は重服にて此度ハは用掛りえはえりまは敏宮泡和宮泡のハは
聴聞濟はてまくにハはみにて出されは備へハ尾張より上ふる

廿四日

一 今日ハは小座敷にて儀奏衆え一寸くハ一こん下されはとの外くハは賑
く

廿五日

一 知行ハはもつ本新内侍泡

ハはかそぬ 駿河とのカ

進上

一 澤大夫ぬ元服ニ附二種一荷進上

廿六日

一 泉山えハは代香宰相典侍泡の糸りハは香ハは花旨

一 妙勝定院宮泡ハは大すき泡初ハは重之内下されは

廿七日

一 今朝宰相典侍泡ハは上り

一 聖門泡今日一品宣下ニ附辰半刻奏聞二度有少將内侍泡ハは廻り之右ニ附
御所ハは三種二荷殿上人のハは使にて給ふ立目録書有大ハは乳ハは口上申儀
奏衆えハは渡し申は

一 敏宮泡和宮泡祐宮泡壽萬宮泡よりこんぬ五十本つ、御用り、り取次旨
敕使のやつハは一所ニ糸の由

廿八日

押小路甫子日記

- 一 進献の茶口切關白泡仁門泡不系所司代も故障にて不系之
- 一 夕膳准后泡一所之出る
- 一 敏宮泡和宮泡不系祐宮泡心泡不系泡一折上クク兩宮泡方組合之泡よを肴一折上クク不系の宮泡之泡え膳茶泡く和し泡多て肴
- 一 祐宮泡局泡膳茶泡く和し長橋泡口上之泡使下之
- 一 長橋泡所勞本服の心祝ニ附五枚重の焼物泡盃一之肴五種泡きん上右ニ附祝被遊祝き五百疋あかり多手あり一之下さる
- 一 祐宮泡え肴三種進上返し
- 一 金二百疋下され准后泡え泡取三種梅の鉢うへ一ツ進上返し
- 一 銀一枚ある三ゆひ下され女中衆えすもし硯多肴吸物泡えしおもらい申女中肴肴五種めて度福きる

一 夕方一こん前にて戴はとの外ノ販之

廿九日

一 御神供大すぎ泡え仰出され神事入之

三十日

一 御拜有末のしゆ萬事所勞の節金子十兩尾張を拜しやく願出されへて今日十金之内五兩返上致申され残り之所るうに返上申され

十二月朔日

一 御拜有御神供大すぎ泡系向ふの泡こつ抜百疋肴朝泡盃肴朝りせの大すぎ泡少將内侍泡賀之系賀泡對面成准后泡朔日肴肴一折上クク心泡て不系之

一 來ル廿七日す、拂來年の別殿小御所ト仰出され尾張えも仰出されこよひの盃三こん肴三こんめ長橋泡の酌之女中男り

通り有

二日

一御拜有賀茂下上由法樂有小御所へ出御成よ乙有

三日

一御拜有聖門泡一品宣下由礼よ由系内常御所にて由對面由りち由ふさのり
由盃二こんぢ二献め天酌之由といせん大すけ泡由手長長橋泡役奏大由
乳聖門泡爰由といせん衛門内侍泡由系内ニ附

一由馬代銀一枚三種一荷進上

一敏宮泡和宮泡祐宮泡孝善宮泡はこんぬ五十本つゝ由三頭泡え二百疋つ
ゝこんぬ五十本つゝ大由乳え同斷駿河とのえ金二百疋下され由返し
に由三頭泡よりこんぬ五十本つゝ小由り十帖つゝ駿河とのよりこんぬ
三十本大由乳方こんぬ五十本上る

一聖門泡由乳衛門督系のゝ由杉折由く和し上りのゝ由言傳に由まん五組

大すき泡初え被下由乳方

一由三頭泡え由はん二組上のゝ由尋ゝ由ふそこ入由袖入由まを註一本下
され由申口にて由口祝由認盃有由く和し出る今日長橋泡より由盃被下
由所由重服にて由斷之

一今日宮泡りさか何もくゝまんをん物無由をらいの由まゝ之長橋泡由
役あさゆへ當年由三十七にて中をめんさのり

四日

一昨日か少々由風心泡にて由飯床ニ成りのゝ由藥由りきん申され由

五日

一仁門泡來ル十七日一品をん下由日限仰出され由礼ニ由系内由小座敷
にて由對面成由手つりさ由末をろ一本給り由

一永平寺香衣十三貫四十目上納之

六日

押小路甫子日記

一 泉山え宰相典侍泡の糸り香の花着

七日

一 今朝宰相典侍泡の上り之

一 祐宮泡此本とが世せさく泡の尋ふはく和しは着系るは使は下さち之
知おん院の香衣二十二貫三百二十目大すき泡の局を上るは与ぬ此度
大分の所勞にて今日かめて度下されは

八日

一 今日と梨の供養に附は与ぬかうんふうりい上るは准后泡祐宮泡敏宮
泡和宮泡

孝参宮泡えも上るは夕りさ盆一こん着女中計は通り有

九日

一 こよひ別殿乙てみ附は盆飯床にてあふをのし枕計出御成小御
所脱方にて口祝着は飯床にて三こんを一こん二重の女中計小御所にては

通り戴はすみくのし雑煮は吸物系る女中衆もは夕附は雑煮は吸物戴
は三仲間のしゆも同断下されは表のりさくは表は申附之由之

十日

一 今日いとぬえは両頭泡の取計にてはく和しは着三種は尋下されは

十一日

一 和宮泡の誕生日に附小いぬさ一寄さ着一折はてふし一枝上りの
一 准后泡敏宮泡祐宮泡孝参宮泡小いぬさ一寄さはれし系る
一 御所は着五種は精進うちり一折をぬの宮泡は三りさ泡よりする
く一折つゝをぬの

十二日

一 今日敏宮泡えは風は尋ふはく和しは着三種着今日東對屋西對屋局向す
は拂にては口切の認はく和しは茶戴は
一 明日は代香は表え仰出されは

十三日

一 泉山え代香の表の香の花

十四日

一 ぬん料の引りへ今日明日

十五日

一 岩清水の法樂有小御所に出御成よみあり

十六日

一 今日暮の祝儀の表の内儀伺えしえ下され此度關東の諸家えす
くひ下され節伺のしをせゆへ思召にて筆頭兩人に藤木權介
え七兩ツ、宿番の人々うゝ野保生院初え五兩つ、その外え三兩つ、下
され祝の例え通り下さる、信樂院に拜借金三兩返上有今日新嘗一
昨年公卿救の心祝あふをの、准后のよを看一折上りの、系役の
人々少將内侍の新内侍の越後大の乳能とぬい賀より看三種上る

一 盃焼物もて十枚上る大すき初えの硯多の看計出ス大すき少將
内侍より公卿救のつゝ系役の心祝にて二種のの取の吸物一
ツ進上女中えすもしの吸物一ツ出る

十七日

一 仁門の一品宣下刀脱カに附太二腰の馬代銀一枚三種一荷進上

一 御所より三種一荷殿上人の使にて系る立目錄書儀奏衆え出され

一 敏宮の和宮の祐宮の孝善宮のこんぬ五十本御用りより取次の使に

系るの両頭のよりこんぬ五十本引合十帖つゝ系る

一 福を拂のすきの初よりこんぬ百本系るのよな駿河との大の乳よりこ

んぬ五十本つゝ上る大すきをハの母儀代にて別段こんぬ五十本小ぬ

一束あるの三把の本坊の待使待カにて進上今日陣有奏聞二度少將内侍の
廻り

一 伏見繪宮の此度紀州の縁組の治定に附今日暇の系内午刻過は系り

花鳥の世間にくは對面は口祝者こんぬほそを盃盃申口にては膳者
 は表は本ふせんは拜見聽雪まは拜見は附の衆え申口にくは口祝は認盃致
 ははく和しも出るは表は本ふせん拜見有何りとく
 一 おそく成力のゆへ申口にて宮泡えは茶の子出るは附の衆えはちく所
 二 ては茶のこ戴さりをはは系内ニ付は花ひん一もこは肴一折上りの
 一 は暇の時分は對面表向紅白はさほや三卷六哥仙は巻物一卷經師張は
 硯箱一もこ一番は文こ之内ニ赤地は縫の小町形一組は袖入二ツはは
 ちくろ一ツ花のはをつり一ツは人形一ツあさりははりんさし一本はま
 ざる一本入りの
 一 祐宮泡えは文こ之内は祐宮泡えより見事成は人形一もこまんの
 一 准后泡え自讃歌はかり五ゆひは内々は品物まんのの、准后泡えは暇こ
 成まんの、は供の衆もまの、
 一 今日のはみやは三頭泡えは綾一反つ、

一 按察使典侍泡え初えはとんぼの帯
 一 白縮緬一反はとん同斷駿河との
 一 はさんちやく二つと兒は兩人は
 一 は紙入一組は盃日茶おくは泡え
 一 てん中は煙草入一組半一ツ
 一 は繪子一さん大は乳え下されは九こん一樽女中衆え系る
 一 初夜ころはするくとは暇え

十八日

一 關白泡え父子一条大納言泡え寒中のは返しは肴一折つ、奉書こるは聖
 門泡えは菓子旨

十九日

一 官位はささの表えは鉢肴三ツはすゝ出るはく和し
 さし出の磯

霜 紅 梅

一うへ松なをいもきん上之返しにあら二ゆひ下され錦小路なをい
いまん丸きん上之返しにあら二ゆひ下されは妙染院なを拜借金二
兩二歩返上有

一伏見繪宮を此間敏宮を和宮をえのいもやおとりおとしは成クのよし

一内文こ之内系る

一夢夢宮をえも内文こ之内内手遊者

廿日

一と取し

廿一日

一内侍所を法樂有よ乙上ケ有

一關白をえ幕に祝儀判金一枚絹二疋布肴一折内々の多みて系る

一近衛大納言をえ毎々いさ酒上クのゆへは挨拶を絹五疋内々の

は多みて着掛りの人え金千疋大乳の多にて被下は

一微妙覺院をえ銀五枚内々の多にて出る年寄始銀十枚大の多にて
て出る鳥丸大納言をえ絹一疋銀三枚下されは今年か此はぬ口向よ
り上りは三頭をえ多にて出る夕りさか神樂の神事

一准后をえ月水にて下り敏宮をえ當夜乃ゆくし今日まをの嶋縮
緋一反紫のおもし二すしの板一すし縫取煙草入二組三とく紙

入二小町形組物殿中煙草入半計七はまんちやく二男紙入二毛うへ壹
は人形壹袖入二平うち二本あさりのゆりんさし一本はまをる一本系
る神樂系役

大すけを少將内侍を仰出され系役尾張えも申渡ス

一は表を茶の殘四十八袋上は廿袋はこん奉行え出ス大すき初二袋
つゝ上るは新座ハ一袋つゝ上る夕方手おし服しや出されは

一別當典侍を長橋を衛門内侍を今系を因幡を下り之

廿二日

- 一 賀茂下上の法樂小御所に出御成よ乙を有廣橋大納言を
- 一 此度敕点詠草伺初て申看一折をん上御所よりハ被下無
- 一 後院御鎮守正迁宮に附よし田を初に料理二汁五菜に祝酒下されに此
- 外に廿三人を料理壹汁三菜にくをし有是ハに表をてに申附をて出
- 一 御本社に白銀一枚壹包
- 一 東末社に金百疋 一臺
- 一 北末社に同斷新末社同斷
- 一 柿本社同斷山神社同斷
- 一 南稻荷社同斷皆々雲をしの臺に祝儀吉田三位を
- 一 白銀十枚に絹二疋同五枚吉田侍従をえ下されに
- 一 廿四日立樂に附系敕樂人廿一人に金百疋宛是ハ明日傳奏衆を出
- 一 白銀二枚御用掛り壹人

- 一 金貳百疋を修理しよ三人に鳥目五百文を、仕丁頭二人同三百疋脱アルカ文を
- 一 預り二人同五百文を、修理しき下二人金百五十疋を、後院侍中三人
- 一 鳥目二百文を、帶刀仕丁三人同壹貫文平丁五人
- 一 金百疋を、賄壹人吟味役壹人
- 一 板元壹人鳥目三百文を、煮方壹人板元方仕丁壹人賄下壹人山科壹人右
- 一 之通り今日御用掛りを渡ス廿三日戴さりを由之
- 一 今日正迁宮に附て准后に浴をえに看一折を有をふよりハに神事をてに下りゆ
- 一 へ上にカにはに神事中ゆえ正迁宮の神事ハ別段をふをルに
- 一 夕方に丸火入に附て内侍所に鈴を系る本銀一枚をくしの湯に
- 一 行水を初夜に常御所に庭をみはりは出來クのに庭をてに拜をふを
- 一 女中衆も庭をえおり居に湯ハ丸火と一所をてをふを正迁
- 一 申すはくと濟をの子刻を表を言上をくし成をクの

廿三日

一 当日内侍所え賀茂五王の樽りさくし初穂銀一枚を巳刻ころ准后の
 上りゆきお今こんの當日に附ゆよを肴一折昨日正迁宮に附ゆ肴一折
 上クのく
 一 酉刻ころゆ表くし言上
 一同半刻ころゆ湯着出御成刻きん出るゆ服男りさ系役大すけゆ少將内侍
 ゆ廻りこ
 入御成初夜ゆ一献着ゆ表めしゆ一こんゆくし下されゆ内々出御もあ
 ぶせゆ准后ゆゆくし上クのくゆくしゆゆゆゆ三仲間えもすく
 ゆくし下されゆ丑刻ころゆするくしと済せゆ大すきゆ初りへり系
 りゆ榊上るゆ口祝有尾張自刀ゆ口祝戴さりせゆ丸火解らせゆうしの
 半刻ころ御くし成
 一 両宮ゆえハみうめんるより廻させゆ祐宮ゆえ同断系る

廿四日

一 神事脱カ解手あし多くしや上る別當典侍ゆ今系ゆ長橋ゆ衛門内侍ゆゆ丸
 ぬ上ぐるゆゆあそぬハ月水にてゆそ進上
 一 准后ゆゆ神事解に附ゆ肴一折上クのく今日ゆ辨當
 一 乙て准后ゆ祐宮ゆゆ辨當廻りゆ女中衆も辨當にゆくしも有
 一 後院ゆ社に立樂ゆゆゆこあさにてハ何もくゆゆゆゆ
 一 大寄くゆ茶准后ゆ敏宮ゆ和宮ゆ祐宮ゆ参宮ゆえ系る鳥丸ぬゆぬく
 参草一こち進上

廿五日

一 仁門ゆ一品宣下のゆ札ゆ系の所少々ゆ所勞にてゆ断仰入ゆ後日ゆ系
 ゆ願ゆ世話卿をもつて仰入ゆ關東ゆ薬種きん上ゆしの順番ゆ尋ゆ
 明日ゆ代香ゆ表え仰出されゆ今日あうまんにゆ夕りゆ備へ上るゆ膳
 二ゆりゆ出るゆくし取ゆゆゆ初夜みあう尺一番まねえのゆ文こ
 上るゆ表ゆ内儀三頭えゆくし被下ゆ

廿六日

一今日の代香の表方の香の花
 一今朝よりいよゑよと〜家所勞のよしにて尋みゆくをし七十の頭
 頭を戴さるゝ大の乳傳へ申候

廿七日

一今日も拂に附ては七ツ半卯刻劍聖をしましは樂もん所へ出御
 成の表え仰出されしその後引渡駿河との引渡
 一准后の御機嫌伺ひのよきを看上りの敏宮をわは祥忌の清め
 の遊しり後日の上りの和宮を看二種上りの長橋を今年ハ
 重服にては表のりさ〜はまき無口向にて認出來はうんふの殿
 上人え下されは重之内奥に用にて申附はす〜一對出し
 一申刻比あつりゑにては盃一献者女中男りさは通り有酌少將内侍は
 看大の乳はく見る能とぬにてんをりへ越後ぬ之申口にて女中計は重看

にては盃つりへにてはと致り有酉半刻ころはすゝはする〜と濟りの
 事の表方言上夫方清まらひ白川を召されは濟りのうんふ有はす
 る〜入浴成常所にては盃三こん者准后の出座之女中計は通り
 有酌大の乳は樂もん〜は表ハ召はりしは硯多さにく兩役當
 番の近習え出しはうんふの殿上人え別にて鉢看出る兩役修理し奉
 行はも別にて鉢つゝ出る

廿八日

一朝は盃今日歳暮は祝き准后の二種一荷上りの
 一浴所八米十石の^{木カ}手形黒地はさけ帯一すし少將内侍は使にての
 添使右京大夫
 一准后のえは星は多きまんの〜は使能とぬ之敏宮のえは絹一疋は取
 正月めしは地赤桃立木きんしさを椿は模様
 一和宮のえは絹一疋は取はは服料銀五枚は正月めしはきんふ櫻椿はぬ

をしりら草の模様

一 祐宮のえの絹一疋ありの服料銀十枚の正月めくは縹珍之又外は白馬
こめさきは服りつきは地赤和哥の浦の模様

一 善善宮のえの絹一疋あるは服料銀十枚の正月めしは白一重の廻し申
入は敏宮のえの初は星ふは多々ククは祐宮のえ准后のえは桃色とんはは
多くまんのえは新宰相のえ多りくは進上

一 善宮のえは衛門内侍のえふりくは進上敏宮のえ和宮の祐宮の善萬宮のえ
はい一そこつは歳暮は上ククは長橋のえはし一折進上尾張大納言よ
りこのえはきん上廣橋大納言は本座のえは礼みは盃一そこ梅のえはちう
へ五ツ進上

廿九日

一 關東方進献のさき内侍所えは初尾者多くは茶

運観院の観行院の秋寛院の孝順院の信樂院の妙染院の容正院の梅仙院

の知光院の蓮正院の弘誓院の心淨院の

のいふりて之宿番のいしえ同断

戴りては圓照寺の寺御所えも同断系る

安政七年 申正月より
三月十八日 年号改元
萬延元年 閏月三月
六月中

の 覚

甫子

正月廿七日

一伊よゑ隠居

三月十八日

一年号改元ニク

萬延元年後

三月十六日

一祐宮泡御深會木

同月廿八日

祐宮泡御紐直シ

四月朔日

一坊城中納言ゑ三條西少將ゑえ

敕點詠草伺初 常丸ゑむろめ

同月廿三日

押小路甫子日記

一 壬生官務の娘召出されし事

同 廿八日

官務の娘下上る

五月十二日

一 烏丸大納言を古今開見の事

廿四日

一 有栖川中務卿宮を廣橋大納言を綾小路按察使を額字を傳授

一 少納言を所勞に附を尋被下し事

六月四日

一 敏宮を百々御所を輪門の

川原殿えを引移り

同月十六日

一 和宮を月見

同 廿四日

一 妙門を相續を弘メ

同 廿八日

一 關白を因幡を儲君のを乳人をして内意仰出されし

正月元日

一 四方拜寅刻湯着刻きん出出湯朝りきゐては多く男方に出湯成は拜
 濟をのゝ入湯寅半刻まへ巳刻ころは祝出るは焼参ちんはまし葉もりは
 てうしはくむ出る女中は通り有大多く系る大すき泡は初は前にては
 祝はぶうそんおくは泡は兒日系申口にては祝は戴大は乳初戴は
 一 今日は重服のりさく修日局引
 一 是さいさん大すけ泡少將内侍泡は手長之役奏大は乳朝は膳も同断之は
 夕は膳越後系ぬ
 一 關白泡は初は系賀常御所にては對面は三ツ肴にては盃給ふはさいさん
 以下男りさくは太刀馬代進上敏宮泡和宮泡祐宮泡参参宮泡は祝き金
 三百疋つゝ上クのゝ准后泡えも二百疋つゝまんをのゝ祐宮泡え塩さ
 一 折中山大納言をの上のゝそのまゝは返しに出スは附兩人は祝き太
 刀馬代きん上今日出會駿河とのは附始りん使きて口祝有申刻ころは

りた先朝りせの出彦成はは、まよ朝りせをくうしゆ、はそいせんは手
 ある少將内侍の役奏越後な何をも五衣髪上之
 一 准后の春の祝儀金二百疋つゝ、大すきを初大乳上る
 一 少將内侍の新内侍の越後な一、二之文此一折つゝ、能登な初駿河との
 一 兒の兩人を百疋つゝ、進上は返し例之は通り系る
 一 別當典侍の長橋の衛門内侍のハ、重服ゆへ今日ハ進無三日の内進上之
 お久のハ祝き進上無
 一 御所えおくは、兒の兩人より黒無地一番の文此一折つゝ、進上
 一 所々をきん上物有夕り、請取ては盃二こん、二献め大すきを宰相典
 侍の少將内侍の越後な大乳別段は盃下さるゝ
 一 こわくは、膳者盃三こん、三献め天酌之女中男り、は通りは
 小盃もはとをり有今こんを末をろハ給も、は八百のえ天酌ては
 盃下されはくわし

さし出の儀

たこしこんぬ

一 祐宮のえ新宰相のこまのこまは板進上参り宮のえ同斷衛門内侍
 の進上は返し二百疋つゝ下されは

二日

一 御祝のふまお取し大床子の膳出彦成朝りせの出彦をゆふを
 系賀の對面成准后の春の祝き二種一荷をしお取ひ上ク、は目
 録有

一 御所を春の使少將内侍の銀五枚系るそへ使右京大夫の祝酒は引有
 敏宮の和宮の礼は不系二方の色奉書一ふこ上ク、和宮の女
 中衆えはあゝえ二すしつゝ、はとし玉戴は

一 祐宮の妻参り宮のえこたの子はこま板者使高崎系り

一 祐宮の礼は成常御所にては三ツ肴ては盃者濟ク、海邊の間

て口祝は祝はまし大多く来るはく和し出る毛うへのあり一もこ外は
 好紙入一ツ見事成水入来る若ましゆえ申口にて口祝は祝はま
 しはく和し大多く戴は准后はえは礼は成は多ち新宰相は祝はとし玉
 ぎんさの夕方は取そめては盃一献は長橋はえは盃別段は下されは
 請取にては盃二献来る二献め今系は新内侍は能登は因幡はえ別段は盃
 下されは

一こ和くはの膳は三こん来るは三献め天酌にて女中男りは通りは小
 盃もは通り有今日ハはとく日ゆへは末をろハ給そははおは本はえ天酌
 にては盃下されは今日祝すみくの重服のりはくめんをのりは出
 せしは長橋はハは祝のは手長は系り之男居の衆ハは祝すみはまてハ
 申口えハ出不申はく和し

菊の下水

三日

一祝表のふよお取しはさいをん大すけは手長あり橋は役奏大は乳
 一朝はせん宰相のすきは少將内侍は役奏越後は有栖川宮は初参内殿
 は系賀は湯は所望は

一常彦所にては對面は三ツ着にては盃給ふはさいをん以下男りはは祝
 きは太刀馬代進上三仲間はは祝はきん上准后はの上臈三人は乳は年寄
 は礼口祝は祝はく和し出る

一朝りせの大すきは新内侍ははあをんは夕りは請取にては盃二献は二献
 め別當典侍は長橋は衛門内侍はは賀はえ被下は駿河とのえはまは下
 されは

一こ和くはのはをんは三こん来るは三こんめ天酌は女中男りは通り有
 は小盃もは通り有は湯殿は三ヶ日ともくはのはをん上る

一は末をろ給ふおきくはえ天酌にては盃下されは今日内侍所木作初はす
 るはと濟力のは事言上はく和しは百性は祝はきん上

玉嶋川

四日

一 此所を以て物おしそあひふ朝也盃看るいち也祝儀申入少將内侍也とへ
 衣にて参内殿え也廻り親王宮泡りさえ也使始也末はろ一本つゝ奉書こ
 て系る宮泡りさかゆりゝ乙ひふき也参ちん女中衆え下され也
 一 敏宮泡りか也とし玉こ也三頭泡大也乳え殿中對也煙草^{入脱カ}半一つゝ被下也
 一 按察使典侍泡初え半二つゝ被下也兒也兩人え扇下され也
 一 祐宮泡参参宮泡えも也とし玉えんをのゝ也百性也祝き献上
 一 外様公卿殿上人也對面成常所也也服男りさ之

五日

一 此しぬの物おしそあひふ
 一 朝也盃看参藏也祝き申入也也返し也かゝる二ゆひつゝ被下也
 一 白馬節参役仰出され也劍内侍少將内侍泡璽内侍新内侍泡命婦能登る因

幡ぬの仰付の

一千秋萬歳参内殿きいこ立のゝ也よはしぬ由言上未刻ころ出参成也表の
 しゆ廻のゝ

うつゝ舞こる也盃看女中衆也通有男也酌長橋泡也く日る越後ぬ也着
 大也乳之猿の小袖嶋繻子之あ茶え渡ヌ也湯殿初ニ附大すき泡か也てう
 し一枝進上常所也也盃一こん看女中汁也通有

六日

此しぬの物おし花ひふ朝盃看今日修日也精進之夕りさゆちふし上ると
 しをの也盃看一こん之女中汁也通有

七日

白馬節會也を卯刻

一朝の也祝多くおあしのおゆ出る朝也膳也多持ふりにて出るを也半刻こ
 ろ也表くし言上朝をる今系泡少將内侍泡大也乳

押小路甫子日記

- 一 未刻まへ出涉成刻をん出るは多く朝ををるゑお男りふ
- 一 劍内侍少將内侍の璽内侍新内侍の命婦れとゑ因幡をまにて入涉成酉半刻之内に馬覽出涉成又之内に多くゆりつよにて成ふぞゆ
- 一 准后の祐宮もゆ多くゆりつよにて成ふぞゆ節會拜見上臈中臈三の間宮の若きしゆ局の人も拜見有
- 一 出涉ハ上臈りふ中臈まで拜見之節會ゆするくと濟りの初夜比之夕りふ七草にそ一こん指役奏ふとへ衣ゆていせんゆ手長りけ帶之こゆくゆのゆせんゆ三こん指ゆ三献め天酌女中男りふゆ通り有ゆ小盃もゆ通り有ゆ未をろ給ふ系賀ゆ對面成ゆゆゆ
- 一 水山吹
- 一 今日敏宮ゆ初ゆ世話卿えゆ紙入ゆさんちやく一つ上るゆ用掛りゆヒえゆとし玉ゆ紙入ゆ盃一枚つゆ廻し申入ゆ中山納言ゆえハ宮ゆ對面成其をつ下されゆ

一 廣橋ゆえハ鈴にてゆ戴さりを申ゆ

八日

- 一 今日内門跡不系梶井ゆ仁門ゆ聖門ゆ不系ゆ祝きゆ太刀馬代進上聖門ゆよりゆとし玉ゆ扇一箱上クゆ大すきゆ初えゆ煙草入下されゆ
- 一 仁門ゆ方あんひしゆ年玉上クゆ女中しゆえゆ煙草入被下ゆ敏宮ゆえゆとし玉系る
- 一 聖門ゆ仁門ゆのゆ乳系ゆ申口にて口祝ゆ祝ゆ認ゆゆゆしゆ茶出る宮ゆゆ不系ゆ系長橋ゆのゆ盃ハ無二条ゆ方松もちうへ濱くり上クゆ
- 一 今日ゆ修法に附ゆ撫物出さるゆ少將内侍ゆとへ衣にてゆ廻り敏宮ゆ和宮ゆ祐宮ゆ孝善宮ゆゆ撫物表使にて出されゆ隨心院ゆゆ修法に附二種一荷進上
- 一 妙勝定院宮ゆ方こんぬ一そこゆ樽代三百疋織君ゆ五十君ゆ
- 一 微妙覺院ゆよりゆ祝儀申入之

九日

- 一 飾しぬは物なし花ひらぎ朝は盃旨今日准后泡え出涉始に附准后泡か
- 一 肴一折外に泡よき肴七種上クの關白泡か泡よき肴伊よ酒上クの
- 一 申刻ころ出涉成准后泡え肴一折あふ桑泡小机一もこ泡手つりふ紫地
- 一 泡まつの内赤地角取泡紙入一組泡水入一ツ泡袖入一ツ泡まをる一本入
- 一 系る關白泡えつゝ泡紙入一組泡まをる一本泡盃一枚旨
- 一 今日ハ泡不系にて准后泡か泡傳へこ
- 一 祝泡焼あちん泡まじり三献旨次は雜煮泡吸物業り出る泡間物泡一
- 一 こん旨女中衆申口にて祝泡雜煮泡吸物泡菓子泡戴之泡一こんハ泡前
- 一 きて泡戴之
- 一 關白泡か女中衆えとて泡硯寄に肴下さるゝ泡賑之
- 一 准后泡え泡せし玉よ大すき泡初より泡花ひん一もこ上る
- 一 よかりころ入涉成夫より大すき泡初二りそりに泡礼よ系る泡盃三こん

准后泡泡酌にて下されは重服のりさくハ泡礼無出涉の時分ハ泡祝
 濟をのり系り有泡一こん泡一所に泡戴之

一 泡表え是泡出涉ハ駿河とのにて仰出されは泡く和し

さし出の磯白ひとふ

たこしそかの香

一 入涉後准后泡か鳥子泡紙一もこ泡取一折上クの

一 關白泡か入涉後泡機嫌伺クの肴肴一折上クの

一 准后泡え泡とし玉に泡好切小町形泡紙入二ツうき銀花の類附^てえんせのり

十日

一 今日諸礼小涉所え出涉成泡對面ほふぞ今日親行院泡初泡礼の所
 泡かこも泡不系三仲間も不系泡祝儀百疋つゝ進上泡不系のりさくえ
 泡焼あちん泡あそふきの物泡く和し泡戴よりを申は近衛大納言泡より
 泡年玉上クの

十一日

- 一 神宮奏事始小御所に出涉成りつゝまゝに拜有濟をのり神宮の傳奏えく
 儀の由間にて天をい給ふ神宮の法樂讀上ケ有小御所へ出涉之
- 一 靈りんしの宮泡の礼に成り對面口祝の祝出るは年玉上クのり
- 一 敏宮泡祐宮泡孝宮泡えりとし玉指申口にて膳出るは供の尼兩人申
 口のゆゑんさし敷にて祝の祝戴りりをし茶出る
- 一 蓮觀院泡觀實院泡應修院泡礼に系のり祝儀百疋つゝ進上
- 一 對面成り三ツ肴にて盃下され申口にて祝の祝出る音羽の御所
 上臈泡の礼口祝の祝認りし出る次尼口祝の祝認りし
 戴りりを三仲間口祝計申口にて致は祝の祝認男居にて例之通
 りきん上有
- 一 靈りんしの宮泡准后泡成ふをのり
- 一 蓮觀院泡初も准后泡えり系り

- 一 靈りんしの宮泡准后泡成ふをのり成り暇に對面成り年玉に紙入二ツクのり
- 一 敏宮泡初もてん中煙草入七ツ半計有り修法中日に附り導師え五合
 五荷職事使にて系る有栖川宮泡てん中半計十三年玉に上クのり
- 一 祐宮泡えり扇一も上クのり三頭泡はよぬ駿河との大乳は煙草
 入下されは帥宮泡よりも年玉上クのり
- 一 准后泡は蓮觀院泡初りへ系り^{り脱カ}一こん出るはくおしも出るは年玉よ
 殿中煙草入二つゝ下されは

十二日

- 一 關白泡より肴一折まゝは生上クのり多り司禪閣泡より茶の
 由道具もを肴久く御機嫌伺ははとて上クのり敏宮泡祐宮泡孝
 宮泡えり文こ之内系る
- 一 夕方年越に附内侍所へ系りゆふをのり湯泡初尾銀二枚内侍え
 りもゝ重さる取末のしゆみて廻りは初尾銀二枚肴一折系る

此處より重着出るは年たけまめ旨末の衆方廻しは准后泡も此系り此一
 所之女中しゆも此系り此祝酒出るはまめ出る入湯成此盃一献者此乃め
 せやし少將内侍泡之此中段湯殿參内殿此三間上段小湯所をけら持系
 の女中汁此通り有別殿始小湯所之出湯成此盃三こん者此三献め天酌
 女中男り此通り有入湯成此雜煮此吸物業^{も脱カ}り出る大すき泡此初此認此
 雜煮此吸物業戴之

一今朝賀茂下上奏事始小湯所之出湯成賀茂の傳奏之申口にて天てい給ふ
 明日ハ此日柄にて夕り之方此精進此夜しよくハ此みみ出る
 一今日近衛大納言泡二条内府泡之此とし玉此紙入二つと系る此内之此此
 寄み之

十三日

一此し之の物をし花ひり朝此盃者今日修日此膳此精進此修^{な脱カ}法道城之此内
 之成ふをのし准后泡も此一所成ふせのし入湯成おる泡此初三仲間茶のし

夕り之立春之附こかく此の此せん此三こん者此三献め此酌ハ長橋泡之
 此日柄ゆへ此表ハ召さ及此表仰出され此こかく此の意もしハ出此

十四日

一此し之の物をしこあひり朝此盃系る瑞龍寺泡此礼常湯所之此此盃者濟
 クのし此ひまの此間之此此口祝此祝出る申口にて此膳出る知光院泡此
 初此系り此祝儀百疋つと進上此對面成此三ツ着之此此盃下さる、申口
 にく此認此祝出る三仲間のちむつの衆此礼申入口祝戴、りを此此供尼
 兩人之申口にて口祝此祝此認戴、りを此

一瑞龍寺泡此年玉上クのし
 一敏宮泡和宮泡之此年玉系る祐宮泡善喜宮泡之同斷系る
 一准后泡之成ふをのし此供の衆も今日
 一九もし成此對面成此とし玉之此前之此此紙入二ツ系る敏宮泡和宮泡之
 てん中此系るこ入七ツつと系る

- 一 祐宮泡方男らさゆ煙草入三組有栖川宮泡えゆ年玉こゆ三頭泡いよぬ
- 一 駿河との大ゆ乳方ゆ盃七枚ゆ文ここ入上る
- 一 靈らんしの宮泡えゆ三頭泡いよぬ駿河との大ゆ乳方構尺文ここ男ふて
- 一 こ入二組人形一ツ袖入一ツ毛うへ一ツ小ゆ食ろう一ツゆとし玉こ上る
- 一 瑞龍寺泡えゆ年玉ゆ三頭泡方男煙草入二組ゆ人形ゆ盃二枚系るふり司
- 一 禪閣泡えゆとし玉ゆ紙入三ツよを肴五種有
- 一 今日ゆ修法ゆするくゆと濟クゆゆ導師より三種一荷きん上ゆ撫物返
- 一 上内侍泡ゆ廻り之宮泡方れも返上有ゆ對面成天盃給ふ蓮正院泡ゆ初り
- 一 へりゆ系りゆ一こん下されゆゆとし玉ゆ煙草入下されゆ知光院泡ハゆ
- 一 不系之
- 一 夕方としをのゆ盃一こん有女中計ゆ通り有
- 一 踏歌の節會參役仰出さる
- 一 劍内侍新内侍泡聖内侍宰相典侍泡命婦能登る伊賀ぬえ仰出されゆ

十五日

- 一 朝のゆ祝赤のゆりゆ花鳥のゆ間え出るゆ拜せん大すき泡ゆ手長長橋泡
- 一 役奏大ゆ乳朝ゆ膳別當典侍泡少將内侍泡いりぬ
- 一 常侍所こ七種のゆりゆ出るゆゆいせん大すき泡ゆ手なる少將内侍泡
- 一 奏大ゆ乳心とへ衣こゆ中段のまこまて持系る
- 一 朝りきぬ大すき泡新内侍泡ゆ賀ぬ之系賀ゆ對面成
- 一 和宮泡えゆ年玉こゆまころくこん一ここまんをゆ
- 一 一座主宮泡えゆとし玉ゆ紙入二ツ有
- 一 聖門院泡え同斷系る女中一同方も例え通りゆ二方泡えゆとし玉系る
- 一 和宮泡え女中一同方あふりゆゆ手ゆ寄り一ここ上る
- 一 妙勝定院宮泡方ゆ年玉上ゆゆ大すき泡初えゆ年玉下さるゆ
- 一 近衛入道泡えゆ燒参ちんゆまし大ゆ乳心ゆこて上る
- 一 觀行院泡孝順院泡ゆ燒参ちんゆまし系るゆ寺御所えも系る坊城一位

ぬえに焼香ちんぬあつとふほきるお喜賀ぬえもに戴よりを申は中山お
 あいぬ堀川叔世院ぬえ同断に戴よりを申は
 一 昨年不きつの人伊久初六人殿中半に百疋つゝ戴よりを申は
 一 容正院ぬ事なりゝに不勞との本りゝむつりしよし観行院ぬ申入
 のゝ尋み白銀十枚下されぬ准后ぬを五枚敏宮ぬ和宮ぬより銀三枚つ
 ゝ下されぬ是ハ頭の事ゆへり様ニ下されぬ
 一 夕方とんとにて出涉成ゆりち丸ぬハ多くしやて出申さきは常丸ぬ壹
 人あり濟をぬゝゆりゆにて一こん者
 一 こゝろくぬに膳に三献者ぬ三こんめ天酌に通り女中男りゝぬ小盃も
 ぬ通り有ぬ末をろ給ふ廿九人くゝのぬさんぬ湯殿え上るぬくぬし
 抱ふ此戸
 十六日
 一 踏歌節會敏宮ぬえぬ年玉ぬ重硯五人前一もこまぬをぬゝ

一 なるう正院ぬ所勞むつりしくニ附當年中の知行此ころは拜領の願出傳奏
 衆え仰出されぬ
 一 親正町ぬお乙あぬをもしぬ大すきぬのぬ局え拜見ニぬ糸り外あふぬぬ
 事ゆへぬ乙ぬ赤地角取ぬ紙入一組ぬをを一本ぬちよく一ツをもし
 ぬえ赤地三折ぬ紙入一ツあさりぬらんさし一本ぬいゝぬ人形一ツ下
 されぬ
 一 祐宮ぬぬ人形一ツゝ下されぬ
 一 酉刻ころ節會くし言上出涉成刻きん出る劍内侍新内侍ぬ璽内侍宰相典
 侍ぬ命婦能登ぬ伊賀ぬををすれそふやて入涉成うしの二刻まへぬする
 くと濟をぬ御格子仰出されぬぬくぬし
 乙の雪
 十七日

一 今日三毬打八過ぬ表くし言上出涉成濟をぬゝこんぬおもてぬ盃一こ

ん旨は表方來ル十九日舞は覽ニ附南殿えはさし手水設のや伺有
はふいすハ設のニハ及不申は手水計設の様仰出されはさいもハ
末の衆方持系の

十八日

一 四年玉は三重之内は看入女中かきん上祐宮泡え小辨當は兒のは人形を
へは年玉の上る

一 孝考宮泡えは人形一そこはとし玉女中一同方上る

十九日

一 今日舞は覽ニ附はむる卯半刻内侍所えは給は看一折系るはそつ本銀一
枚也

一 巳半刻ころ鶴の本ふてふ出涉成濟をの南殿は出涉成關白泡は初は對
面成はす不宰相典侍泡は劍ハ新内侍泡う持著用之

一 准后泡も成ふをのは晝物は一所へ出る敏宮泡和宮泡は不系はよさを

看は二方よりは組にて上クの祐宮泡は看一折上クの准后泡は
看一折上クの

一 知光院泡蓮正院泡方するく一折進上今日ハは不系之敏宮泡和宮泡え
ははくもへのは膳一通りはく和し役附えんをの

一 祐宮泡准后泡えははくもへのはせんは廻しニ成は南殿ニくは祝女中准
后泡の上臈りハは戴は之は一こんも下されははむるの物は戴之准后泡
え廻りは女中衆もは戴之太平樂にては盃有は出座祐宮泡准后泡鶴のこ
ん出る女中は通り有酉刻はするくと濟をのははくもへのは膳出る
はさいせん宰相典侍泡は手長少將内侍泡役奏大は乳之

一 是夕は膳准后泡トハ一所へ出る女中一同は戴之は祝濟クの
一 別當典侍泡は初は重多くのりハは出ましのは認は戴之はむるの物
ハは戴無はく和し

はと赤霜紅梅

押小路甫子日記

廿日

一御拜有賀茂下上_レ法樂有小御所_ニ出_テ成讀上_ケ有
 一法中參内出御成夕_リの_レ是_レを_レ一_レこ_レん_レ系_ル女中_ニ計_テ通_リ有
 宰相典侍_ヲ春_ノの_レ系_リ今晚_{ヨリ}の_レ神事_入

廿三日

一御拜有内侍所_ニ法樂小御所_ニ出_テ成讀上_ケ有高階安藝守子細の所勞に
 て_レこ_レあ_レ准_后の_レ祐宮_ヲ代_ヒ申_入の_レ右_ニ附_御所_ニ准_后の_レ代_ヒ肥_後
 守_ニ仰_附の_レ祐宮_ヲ代_ヒ西尾土佐守_ニ仰_附の_レ和宮_ヲ代_ヒ中山攝津守
 仰_附の_レ

廿二日

一今日五山_ミあ_レ不_系出_テ沙_ニ無_{宰相}典侍_ヲ今朝_内侍所_ニ春_ノの_レ系_リ
 有_レは_レ進_上の_レ口祝_有

廿三日

一今日上下御靈社北野社平野_ニ代_系駿河_トの_レ尾_例之_レ通_リ
 廿四日

一御會始_ル人数_ノの_レ詠_進申_刻ころ_出成_入成_成は_レ盃_ニ二_献着_也とい
 せん_也手_長は_レ通_リ有_{今日}竹田_ノの_レ代_系

右京大夫系る

はくかし

若歌輔^{浦カ}より草ま

廿五日

一こ_レあ_レ乙_リあ_レは_レた_テふ_出ク_の今朝_{ヨリ}は_レ飯_床ニ_あは_レま_をの_レ高
 階_丹後_介伺_申され_レ何_もの_レ當_分は_レ事_ト申_入の_レ附_藥上_の
 夕_リの_レ口_はま_カの_レは_レよ_しの_レ通_リと_申入_の聖_門は_レ誕_生日
 ニ_付小_いの_レま_一多_のは_レて_うし_一枝_上ク_の

廿六日

押小路前子日記

一仁孝天皇様は祥當に附般舟院に銀十枚は法事料に出る兩寺えは代香長橋は系向は備へのはくおしは心さしも有は香は花旨准后より御機嫌伺クはくおし上クの

一敏宮は和宮は組合にてはくおし雪もち上クのこあより兩宮はえはくおしをんをのく大すき初よりもよまはる嶋上る三仲間をぬるもち上る女中は馴染の人長橋は大乳よりは一所にはこあ上る

廿七日

一准后はは精進解に附は看三種上クの今日壬生東寺因幡藥師は代系大乳は初尾例えは通り出る伊とぬ事とひより願之通り伊よ退役隠居仰附の多年勤勞勤中の通り知行は加増ともそのま下に下されは先は代より多年勤勞中薦りくに仰出されは名を少納言と被下は所勞に下り中ゆへ長橋より立の奉書にてるん居知行の事よこちふしのは多にて出るは使は使番をる里方え系る

一少納言は不勞にては請は官むより申入の准后はえは吹聴は札は代筆にて准后の奏者所え里りの待使を系る

一敏宮は和宮は孝宮はえも待使をる旨御所えは札の多は待使をる局會所え持系る長橋はえ系る隠居に附は内下され物は何もく下され無

廿八日

一朝は盃旨今日所司代よりは内はきん一ちり五種のは看きん上

一近衛大納言は二條内府はえは看三種つゝもし哉と系る

一敏宮ははは二種上クの

廿九日

一有栖川宮は御機嫌伺クのは看上クの今晚より春日祭は神事入手あし服しや出さるゝ月水にては下り今系は新内侍は衛門内侍は下り宮はえは手遊ひ旨上り合のはは掘川をえ下されは別當侍は長橋ははさしつりへにては下りこあ此本とがは望さくにては祥忌のは湯

遊しりち清めててゆふさゆふの神供少將内侍を仰出されは春の系
り越後なる因幡今もんより神事入之

三十日

一今朝新内侍の進上り花進上

一夕方九火入内侍所へ鈴系る初尾銀一枚正月廿六日の祥忌の
清めゆきさくにて被遊りゆひまの間に清めゆきさゆき
煙草本手ゆふりハ神中のをゆきさくへは清めて相濟は湯殿
ゆきし清めのゆきさくハ常のゆきさくの茶をハ九火の
ゆき跡とハ用意無火入人々毎ものゆき火の道くハ出し不申常
のゆきさくといりへ相濟は今晚よある過今系ゆき上りゆきさくもゆ
よろしくゆきさゆき飯床さゆき仕舞もゆきさくれは

二月朔日

一神供少將内侍の系向まゆのゆきつ本金百疋系るゆきは朝は盃系
春のゆきり少將内侍の越後なる因幡ぬ
一くは進上朝りまゆの今系少將内侍ゆきあもるぬ
一准后ゆきまゆの祝儀仰入ゆき一折上ゆき春日祭ゆき當日ゆきし
ゆきさゆきゆき物例之ゆき通り夕りゆきゆきし取有
ゆき今系ゆきまゆ進上

二日

一神事ゆきまゆと濟ゆき言上神事とまゆ手あしゆきしや上
まゆ別當典侍ゆき長橋ゆき衛門内侍ゆき上りぬ
一准后ゆき神事解に附ゆき一折上ゆき今日關東使參内所司代誘引將
くん家より銀百枚蠟そく千てふ三家より太刀馬代半金一枚つ所司
代より同斷進上よこ瀬美濃守より銀一枚太刀^{刀脱カ}こし進上
ある橋ゆき大乳二百疋つよこ瀬に到來關東使小御所こゆき對面成天

とい給ふ

三日

年始ニ上りぬ樽肴はくこり
 一内侍所えぬ樽肴系る准后は祐宮は兩宮はえ系るゆふ之祐宮はえハ使
 表使ニ
 大すきを初はくこりニ

四日

今日ぬ焼参ちんのゆ乙てニるは表兩役のしゆ出る
 一關東使よこ瀬美濃守は暇奏者所え系る菓子酒被下は傳奏衆は廻り之給
 物有

五日

一仁孝天皇様は祥當ニ附は表は代香般舟院計ニ
 一香は花は泉山ニ宰相典侍は系りは香は花は備への菓子心さ

しも有今朝より修日ぬ精進之女中も精進ニ

六日

一今日兩寺にて救會にてはるう供養有は表は詰有は表よりは代香は
 香はか泉山ニ宰相典侍は系り般舟院えもは系りは香は花は備
 への菓子心さしも有兩寺え女中は馴染のりさくよりは花上る御
 機嫌伺准后は菓子上クハ兩宮はえハ廿六日ニ系りはゆへ今日ハ
 せんぞ無宮はりさも上クハ女中衆方もきん上無

七日

一今朝ぬ清めは湯はふさふさ
 一准后はは精進解の肴上クハ
 一は今系るは宮系五衣髪上ニ朝りせぬは系り之濟はて常御所にてこん
 ぬはここは盃下さる今日は名を新典侍トは戴はは表口向えも仰
 出されは三頭えも申渡ヌは礼は肴一折進上有栖川中務卿宮はえはり

形のいざんい着三種ある

八日

一二條のいよささり取うに一もこ上クのく明日樂修院にて讀初に附今
晚はくをし出し置

水山吹椿もちこ

九日

一今日小御所にて當座始三十首出涉成はくをし

乙の雪霜紅梅

一樂修院にて讀物有る菓子出る

一准后の祐宮のい初午人形二つとあるまき宮のいも同斷ある外はおもち

やふのい人形二ツある

一夕方小御所へ出涉成讀上ケ有

十日

一敏宮の和宮のい初午人形あるは附兩人の年始のい返しはあゝ五ゆひつ
と下されは出會駿河との昨冬阿部越後守の内と献上は小屏風一双手之
は挨拶も仰出されは

一靈りんしの宮の三四月之内ふはきんさい所へ成ふせのい先例金百兩
は拜借は願ふ成此度もは願ふ成是ハ口向より上はよし乍仰立のいふま
とりはゆへは世話卿の内と内儀よりは取りへは願ふ附先は取り
へと相成は世話卿へ出されは

十一日

一御拜有神宮は法樂は小座敷にてはふをのい讀はき有

一和宮の來ル廿三日桂の所は逗留は成ふせのい附使番始日と詰は人
は世話卿より伺有伺之通り仰出されは

一後院社正さん宮のい時分侍三人は用つとめは人との祝儀下されもを
は由にて傳奏しゆへ願出願之通り金百疋つと三人へ下されは傳奏衆へ

縮緬二卷紫板一一反紫縹子のおもし附^下帶三すしうこんとんすおとんは
 机掛七^四人形そい^く大^一ツ^四水入壹男形煙草入折物四組金地のまん
 ちやく壹^四爪多^くろ壹男紙入三^ツ縫取^四煙草入三^くみ^四袖入三^あさり
 りんさし一本花のとめ一本平うち一本毛うへ一^ツ手さけ二^こ食
 ろう一箱えんさ^の宰相中将ぬえ^四言傳地紙形^ニ看^四く^日し^さし物
 松^ニ梅大^すミ^仰附^の被^下は
 一生作一^{さい}大^四乳進上申^ハ壽性院始^えは^くかし岩^り五^掉は^えん^つを
 合^おくりは
 一和宮泡え^ハ看^二種^五きのこ^ふえ^上る^ちは^乳始^えは^えん^おくり^は未^半
 刻^{ころ}より^系るとの^奉り^くは^賑と^りへ^り系^りは^へも^係き^りと^之宮
 泡^の手^つり^は縫^の紙^入一^組ニ^はを^を戴^はは
 十七日

一敏宮泡^の使^ニ藤崎系^のは^よを^看上^のり

十八日

一大川明神社^え昨年^{より}の^そや^り病^みよ^ろし^は神^泡ニ^て此^度も^ハ札^うき
 の^ハ大^ハ乳^百枚^小札^二千^枚う^きく^ハ准^后泡^宮泡^りと^え系^る大^すき^泡と
 し^め三^仲間^ハ表^口向^伺は^し口^のち^もつ^三仲^間の^人と^ハ戴^さり^をは

十九日

一^ハ樂^もん^所ニ^る二十^首ハ^當座^ゆを^の出^涉成^觀行^院泡^ハ系^りハ^言傳
 ニ^ハ看^上ク^の
 一^ハ對^面成^ハ認^ハ一^こん^はく^をし^出る

廿日

一とあし

廿一日

一内侍所^ハ法^樂ハ^小座^敷ニ^て讀^上ケ^有ハ^湯ゆ^をく^ハ清^め之
 一今朝^ハ心^泡ニ^てハ^ヒめ^し伺^ハ當^分泡^ハ藥^ゆり^きん^申され^ハ飯

床願申されし

廿二日

一 今日水無瀬宮に法樂修日、精進之小御所にて讀むを有はりを心泡にて
出御也沙々無
一 近衛泡九こん一樽上クの

廿三日

一 和宮泡今日桂御所えに逗留成ふせの、大すけ泡大乳三頭供み系
る辰半刻過橋本ぬえ向大すけ泡大乳三頭系る何りとくおそく成未
刻ころ御機嫌よく成ふせの
一 和宮泡えに料紙硯そこ重之内クの、大すけ泡大乳より硯多さ着
はみやみ上るまゝな花生うす板觀行院泡えはみやみ上る多誇り乳初
え寒月百おくり申は橋本ぬえは看五種ゆきる御所より桂御所諸大夫五
人え銀五枚近習七人六位侍三人外様十八人の中は銀十五枚末々は鳥目

十貫文に祝儀を戴さるを宮泡に認り重看は一こんも戴は初夜こ
ろ歸り系る大すけ泡えまぬとんはおもしは祝き二百疋大乳は嶋繻子
のおもし貳百疋被下は三頭えも下され物有

一 夕りに別段小御所えに枕汁出涉は口祝出るは盃ハは設計之男りに召さ
はは表え仰出されし

一 准后泡も別殿に召兒に拜借近衛泡えはくおし系る

廿四日

一 和宮泡なりく橋本ぬにて世話申入の、右えは挨拶宰相中將ぬえ
半金二枚狩衣白地うふもへは一領大夫ぬは銀十枚はまぬ二疋今日召さ
せにて鈴の口にて給りは大夫ぬえのも傳へは様申は奥方え銀十枚白
地のとんは袖觀行院泡え銀五枚白ゆの袖おほい泡え銀二枚計せも
丸ぬえ三百疋は白縮緬一疋は壽性院え銀十五枚白縮緬一卷おてつは銀
五枚おまぬは三枚小倉ぬえ金五百疋は白縮緬一卷

おぼえぬ瑞龍寺に上臈尼水薬師の尼にえ金三百疋つゝ橋本を家來末に
 きて二十五枚に挨拶を下さされぬ
 おるに初に下されぬ物ハ内々のゆふみにて觀行院に傳へ
 るうと出る廣橋前大納言ぬ世話代にて何りとく苦勞に思召に祝
 儀三百疋すゝの口にて給りぬ用掛取次供奉に附二百疋被下は別段に
 せうまハ無

廿五日

一今日天神掛例の通り有に數三ツ當年ハゆきを祝之大すきにせしめぬ
 りき物上る准后に敏宮に
 一和宮に祐宮に孝宮にゆき物上りの今日初あうしんのゆきしも
 一ゆ一所にゆきをぬ
 一夕りに備へ上るに膳にゆきゆ出る女中衆もゆきゆゆりもりに戴ぬ
 之

一 下御靈社に猿三ツ金二百疋出されぬ大乳局を出る夕方あうまんのゆ
 くし取ゆきをぬに表に内儀三頭えも下さされぬ
 一 天神ゆきのゆきし取有ゆきし紙の通り系る大すきにせしめゆきし戴ぬ

廿六日

一 泉山に代香に表に香に花くうしぬ

廿七日

一 准后にえに頼ゆきをぬに見事成にぬぬ人形にろく仰附ぬ
 出來りの右に附に挨拶をとして准后にえをしより一疋に爪ゆきをぬに金
 千疋に袖入壹に文こに入ゆき手つりゆきお八百に初り梨の人には銀十
 枚下されぬ瑞龍寺に先年焼失のゆき本堂此度建立に寄附に願に
 附金三十兩に内々に頭ゆきのゆき系る外に銀三枚に備へに系る是ハ
 物書のゆきよこちゆきにて系る和宮にゆき此程のゆき札に書にゆき仰入
 のゆき使寄物に乳系ぬ大すきに初にえに重之内に返しに戴ぬ

一 ころゝゆりを泡弥ゆよろしく板床ゆてふいゝ成クの

廿八日

一朝ゆ盃者今日和宮泡え右京大夫系ゆ言傳ゆ肴三種

一 桂宮泡此度ゆ二十五免くりゝ附來月四五日ゆ法事あふせゆ銀十枚出されゆ今日ゆをい取泡ゆ献のゆ間出るゆ神供少將内侍泡え仰出されゆ

二十九日

一 今日きのへ子てゆ備へ上る

ゆ膳よりゆ出る和宮泡え女中か上ゆ花ひんゆ花臺出来ゝ附今日上る

三月朔日

一 神供少將内侍泡ゆ系向朔日ゆ初尾金百疋者朝ゆ盃者朝ゆを新典侍泡少將内侍泡ゆせぬゝ系賀ゆ對面成

一 准后泡ゆをふのゆ祝き仰入ゆゆ肴一折上クゆ此度出来クゆゆをい取泡ハ大清てゆ膳ゆ同様にゆえゝてて上る例年ゆをい取泡え

例え通りゆをん上る夕りゆ表えゆ重一組ゆ鉢肴三ツゆを三對表使ゝを出しゆ

二日

一 瑞龍寺泡ゆ此本とゆ寄附ゆをゆゆ礼ゆをんし茶のゆ道具一とこ上クゆ大すけ泡長橋泡えゆ包物系る大ゆ乳えも戴ゆ女中一統えゆ重え内系る

三日

一朝ゆ盃者系賀ゆ對面成朝りをる宰相典侍泡新内侍泡伊賀ぬゆ樂もん所ゝる三首のゆ通り頭こくゆ當座ゆをゆ出御成

るよひの空
をい本ふ本ふ

- 一 准后泡方節句此祝儀仰入の二種一荷をし一折上クの目録有
- 一 御所方節一折表使にてクの此心取泡え二種一荷は看一折は盃臺は縮緬十卷越後な使にてクの女中一統方看一折は縮緬十卷上る准后泡より盃臺は看一折外は此度の此心取泡えは盃臺は看一折縮緬十卷上クの敏宮泡和宮泡
- 一 祐宮泡孝善宮泡より心一箱つゝ上クの御所より敏宮泡えはよぬ
- 一 正心ある系る此心取泡えは看一折は盃臺は杉折取手桃柳之はよぞ看五種上クの
- 一 和宮泡えも同断クの女中一統より此硯多々看上る
- 一 女中え両宮泡方此重之内戴は
- 一 二心は心取泡え二種一荷つゝ上クの祐宮泡孝善宮泡えはよぬ一正心あるえんぞの
- 一 准后泡方女中一統えは祝儀心取泡えは重之内九こんは吸物鉢看は

廻しにて戴は之

- 一 参内殿にてせよき此覽をの表両役は初は廻り出彦成
- 一 入彦申半刻ころ大すけ泡初の心取泡は覽あふをの暮こよひの盃は三献系るは三献め長橋泡酌之女中男りは通有り女中計は小盃は通有りなるは泡方此取一折きん上する一折大乳より上る夕方より一献は賑々之は頭泡大乳は手さきの内出る按を坊のすき泡初ハはきんるく中にて出不申夕方表えは心取泡の重之内は鉢さり取三ツはまゝ三對は両頭泡取手さき二組そへ儀奏近習え出ヌ今日此はく和し弥生の空

四日

- 一 准后泡えは心取泡は覽ニ成ふをの准后泡方看七種上クの申刻ころ出彦成は手つあふ赤のは角取紙入一組花の此文ちん一ツよろしえはえを於一本鳥子ふつゝみクの此一こんは大すき泡初は前ニ否

一 昨戴は賑々之

一 今日此代香右京大夫系る此香此花系る此心さしの此く和し有

五日

一 明日の此代香此表え仰出されは

六日

一 今日泉山え此代香此表より此香此そ系る妙勝定院宮泡々御機嫌伺
クハクハ杉折此菓子一そこ上クハク

七日

一 壹夜の宮泡此程より此せさくく之附此ふつふはく和し此香三種クハク
知光院泡蓮正院泡玉蓮院泡弘誓院泡今日准后泡の此を以取泡拜見之此
系り御所御機嫌伺ふ此系りにて此く和し下さる、岩倉をもし泡も此系
り之を袖入此あんさし一本此人形壹ツ此兒え此まんちやく一ツ三曲
此戴さり之少將内侍泡此神系一夜此願て此下り之

一 大すき泡初此一統より此看五種此精進まちり之めて度上る

八日

一 今日月を以泡此願事にく此系り此認此間物はく和し被下は

一 夕方少將内侍泡此上り此を進上女中一統は二番文こ之内はをく和し
外之をもし下されは今日此小座敷にて此當座有准后泡此初此人数詠進
之

一 當月三日彦根事關東之を水戸の家來らん入事言上扱々大變れるう子承
りは

九日

一 御てい有内侍所所は當月此此系り二月分之此参り有此初穂銀一枚つゝ
系る東本願寺無淨覺院此度紫衣免んでの、此札参内小御所之を此對面
成當門主の太刀一腰杉原十帖大門主の半金二枚此ある百把進上

十日

一 來ル十八日年号改元ニ附上下御靈社えはするくとの様は祈禱仰附の
は撫物一箱はもつを一枚つゝは多にて出る

十一日

一 此度三宅刑部丞は所勞にて隠居願之の通り仰附の
一 悴え家督相續仰附の礼は着折つゝきん上

十二日

一 今日たよしえは代系駿河との系は備へ銀五枚附臺雲はし敏宮
泡和宮泡祐宮泡参善宮泡より金百疋つゝ雲はしの臺はさき札有は
三頭泡大乳より金二百疋つゝ人別さき札附は
一 按察使典侍泡始二百疋つゝ人別さき札は名前認さ一臺よれ
さ出る少將内侍泡始百疋つゝ越後初より百疋つゝさき札は臺同斷
之駿河との系はもつ持系はこんぬ五十本金百疋駿河とのよりはみや
そへ使よりこんぬ三十本銀一封は

一 巳半刻ころより系は未刻過りへり系は

一 此度壬生寺元祖五百五十年忌ニ附當月十日は日數三十日之間諸人おり
乃を願出願之通りと仰出されは右ニ附は寄附銀十枚は戸帳赤地のはと
んは文附は挑灯紅白出されは敏宮泡和宮泡祐宮泡参善宮泡より金貳
百疋つゝは兩頭泡は百疋つゝ惣女中は金五百疋は備へは出は是ハ少間
違にては代系をまつ持系は由申出は大乳の局より出る

十三日

一 泉山えは代系長橋泡は系は香は花

十四日

一 今朝あり橋泡は上り今日
一 蓮觀院泡信敬院泡は系りは對面成申口にては認は一こんはく和し出る
はみやみは着二種進上は手つりは蓮觀院泡は紫縹子はおもし三折は紙
入一ッ信敬院泡は黒縹子のおもし一ッ下されは表より水戸の家來人

數書上り

一 妙覺院の御機嫌伺の御看三種上りの

十五日

一 こと罷し

十六日

一 來ル十八日改元ニ附内侍所えの百度仰附の御看本銀三枚

一所司代より月次御看一折きん上

十七日

一 祐宮の昨年延引の深曾木來月十六日巳刻ト仰出されは同月廿八

日紐直し仰出されはりんもん両る共越後ぬ使にてまんせの

准后泡えも越後ぬ使にて仰くの御表口向え大乳申出は三頭えも

申渡ス敏宮泡えしめ祐宮泡え吹てふ仰えんせの

一 敏宮泡え初は多みては祝仰系る紐直しハ若宮泡え例とんとく

あふさくは先

一 親王泡えの例にてあふさくはは表事にてハあふさくはは當
日表は一統より祝計にてきん物ハ及不申と申出は様仰出され右
之由申出る柳原ぬ拜賀ニ附二種一荷進上は三間にては對面成は所は風
まにては沙あふさくはは表仰出されは申口に天そい給ふ

福井三河守

高階筑前守

久野長門介

一 拜しん仰出されはさしつりへ座無哉傳奏衆え仰出されは武邊は尋之
筆頭えも此よしは内々心にて申渡ス

十八日

一 今日年号改元は定ニ附

一 内侍所えの御看一折御鈴系る御看本銀一枚准后泡えは祝仰入の御

押小路甫子日記

二百七十七

肴一折上クの

- 一 敏宮泡和宮泡祐宮泡孝宮泡をさひ一もこつゝ上クの關白泡より
- 一 肴一折進上一條泡は父子を肴一折つゝ有栖川宮泡は父子を肴一折つゝ伏見泡を肴一折進上
- 一 兩役組合を肴肴肴一折年陣公卿衆を組合てする一折
- 一 所司代より肴肴肴一折兩町奉行小ありよりさひ一もこつゝきん上
- 一 大すぎ泡初一統おくは泡は兒は兩人をさるゝ一折立目錄にく上るは
- 一 内儀ハ重服しやはは無^{ひ脱カ}一所に上るゝ
- 一 織君泡五十君泡よりさひ一もこつゝ進上傳奏奉行よりする一折進上午半刻過
- 一 奏聞の内侍とへ衣をく少將内侍泡は廻り之准后泡えは肴一折表使にて系る敏宮泡和宮泡祐宮泡孝宮泡えをさひ一もこつゝ系る
- 一 一条左府泡上卿を附^つ肴肴肴一折

一 傳奏正親町大納言を奉行をむろ頭辨を肴肴肴一折つゝ奉書にて出るは夕
 膳を吸物に重肴をすゝ出る女中一統は認は吸物に鉢肴三戴は何も
 きりへ之

一 内侍所を改元を附^つは取一折はくは皆午半刻過奏聞内侍とへ衣にて
 廻り年号改元萬延元年ト定めよし儀奏衆を四折を認て上り准
 后泡祐宮泡えは下さち使を肴肴系る敏宮泡和宮泡え表向のは多て
 仰えんぞの孝宮泡えも同斷系る

一 兩大すぎ泡宰相典侍泡は所勞にては引ゆへ伊賀を使をく仰系る別當
 典侍泡一統えあり橋泡より仰渡されはは祝申入は三頭え大乳申渡ス
 口向ハ右京大夫を肴肴出されは

一 准后泡を祝仰入の宮泡りさよりもは祝仰入の

十九日

一 改元を附近習一統よりする一三蓮組合にて進上近習は番は免一統よ

りするく二進進上所よりもは着きん上有

一昨日上りは着一折つゝ両役衆

一加勢壹人え下されは奏者番はハするく戴は

廿日

一と取し

廿一日

一賀茂上下は法樂は座敷にてあそぶの

廿二日

一孝参宮泡は初誕生に附

一内侍所は鈴者もつ本金百疋は着一折来る

一御所え小いゝゝ一多は着一折してうし一枝上りの

准后泡え小いゝゝ一多は着一折せんをの、敏宮泡和宮泡祐宮泡え
はれし小いゝゝ一多は宛えんをの、

一衛門内侍泡堀川ゑ小板戴一多はつゝ下されゝ上りは着衛門内侍泡

堀川三位ゑ被下は祝酒衛門内侍泡三位ゑ初下されは世話卿え御

祝酒は鉢着三ツ出る伺えはしは用掛はは着二ツは鉢着二鉢は祝酒下

されは宮泡の若きしゆ堀川ゑ家は祝酒は鉢着五ツ之使番三人預り三人

仕丁四人下乳二人

一仲居四人下部三人は祝酒有

一上靈社えは初尾百疋非常附使番者御所よりは着一折は人形一そこのの

准后泡よりはは取一折は人形一そこえんをの、

一敏宮泡和宮泡祐宮泡よりするく一折つゝえんをの、

一女中一統よりは着一折上るは返しよするく一折下されは衛門内侍泡

は着一折は人形一そこ進上は用掛り伺えのはしよりするく一折上

るゝ宮泡ははよを着三種上りの、衛門内侍泡は系りは附は硯多さ

り取すもしは言傳は下されは尾張右京大夫系りの堀川ゑは大は乳も系

り様申系りは共風しやにては斷申入は
 一御所え准后泡方は取一折外はよき看五種上クの
 一今日ハ女中一統方ハきん上物無
 一宮泡方三種の泡看下されは

廿三日

一靈りんしの宮泡來月十五日はきんない所え成ふせの附今日未刻こ
 ろは系りは對面成は口祝出る申口にては膳出るはすみ所にては間物
 看は暇の時分絹二疋二重りさの一番は文こみ縫取は煙草入七組き
 きさんみは繪の扇十本は古のは末はろ一本は香ここは金五十切入は劣
 くはむては縫櫻藤折枝小はふひは模様ははを男煙草入二組はをを
 二本入は手つりくはの靈りんしの宮泡は箱一ツ上クの祐宮泡え
 一寸は品物進上宮泡は男もこ入折物三組ははは人形一ツをんで
 のは供の尼え申口にては認はくはし戴はりをは暮は退出今日准后

泡えも成ふせの所此間よりはりをはにては斷仰入のは上薦は使にて
 は品物をんをの

廿四日

一とあし

廿五日

一明日の泡代香は表え仰出されは

廿六日

一泉山えは代香は表は系向は香はとあし

廿七日

一後院の仕丁當年八十八年賀は附はちんきん上願出願え通りと仰出さ
 れはきん上有は返しは金二百疋戴はりをは敏宮泡は初泡えきん上有は
 返しに金百疋宛戴はりをは

一桂御所よりはゆきん上

廿八日

一 今日參内殿庭の花を覽ゆをのりて間物系る長橋を方々看三種の
吸物にてん進上右に附なり橋をえり辨當一箱下されは今日の事もあ
覽る例年の事もあ見にてハゆふをくれば今年の事ゆへ一寸くは間
物汁にてゆふをのり女中一統えも一寸くはなりもしは方々一こん下
れは

一大すき初よりは看二種上る

廿九日

一 祐宮泡山科能登介伺來月朔日と仰出されは筆頭に申渡ス

三十日

一 敏宮泡此程を望さく祐宮泡をば見舞仰えんをのりてく和しは乃取
えんをのり

閏三月朔日

一 御も有は神供内侍所に附ゆ今日の代系宰相典侍ゆきふの初尾
百疋系る朝りをも宰相典侍ゆ少將内侍ゆ因幡ゆ

一 准后泡を乃取一折上くのり

一 參賀は對面成朝は盃を附大久保大すみ守毎々參内殿え櫻をきん上申
されはに附今日花みをのり見事成は手きき内右之は挨拶になり橋
泡大乳の心にて戴さるをゆつゝおもへ

一 是より岩清水は法樂の時分ハ延引に成れとも朝汁は精進の事今
日ハ治定仰出されは日供ハ看にて出はてもはよろしく右之由尾
張え申渡ス

一 夕ちハ盃ハ三こん旨ハ三献め長橋泡の酌之女中男りハ通有

二日

一 御も有岩清水は法樂有は小座敷にて讀上々有朝汁は膳は精進之此度

壬生官務の娘兩人ゆめまへに系ゆ、申口え系るゆくおしさいく紙入二つ、平打るんさし一本つゝ下されゆ

三日

一 御拜有

四日

一 准后ゆ庭のゆもあゆ覽ニゆ内々出彦成准后ゆ方ゆ看五種上クゆ、こあよりゆよろしあゆ硯もこ一箱系る夕りゆよりゆ一こんゆ賑々之准后ゆ方ゆくしのゆ品上クゆ、まくにゆくしゆゆをゆ、大すきゆ初ゆくし戴ゆ今日官務の娘此度伊与ニ
一 召出されゆ事儀奏乗え仰出されゆ表方官務を召申渡されゆえあし是ハ少々ゆ間違のよしにてゆ内儀より召出されゆ事ゆ由之
一 敏宮ゆ此程よりのゆりをとあゆさし引之ゆゆ月ゆよりしゆゆ高階安藝守えふふくせん仰付ゆ

五日

一 今日壬生官務奏者所え昨日ゆ請ゆ礼ニ系る右京大夫ニゆ申入ゆ

六日

一 泉山えゆ代香宰相典侍ゆ系りゆ香ゆもあゆ

七日

宰相典侍ゆ今朝ゆ上りの所一寸々
一 敏宮ゆえ此程の御機嫌伺ふゆ系りニ附ゆ言傳ふゆ重之内ゆあくさみニゆくしのゆ品系る
一 嶋縮緬一反附帯二ゆ机掛二ゆ多くは一桃色染帯一男ゆそこ入三組縫脱アルカ二袖入二ツ平打りんさし一本銀のゆもしゆまをた二本ゆ盃三枚ゆちよく二袖辨當二ツえんをゆ
一 信楽院ゆ久々ニゆ御機嫌伺ニ系ゆ、一兩日逗留願也ゆ

八日

押小路甫子日記

十三日

一 泉山えり代香の表より香のそゑる

十四日

一 來ル十六日祐宮泡の深會木に附今日の三間をりはい出來二帖さい設
のし上段中段下段ともはまの連之

十五日

一 祐宮泡え少將内侍泡の使をそんえりは前より冬の直衣はさしぬ
まはよこ染はふん緒はさへあらしは服白は鉢もしこまの鉢鉢もしは
服えんぞの宮泡成ふぞのし前を
一 おちままつまは服白は長はもちの袴えんぞのし
一 今日關白泡はまりこる明日の泡内見宮泡はそんちりめしは關白泡は世
話泡をそるふぞのしはてふとの泡あさりも關白泡はあそしは二階棚上
こはゆすりつまは柳そにのそ右こはくし左こはあうりい次こはこさみ

のそはふんの泡とふ左右中三重にては柳そここのそ二ツともは棚の
上にならぬは棚の泡よこみはこそんみ青石二ツあらぬ

十六日

一 祐宮泡御深會木に附内侍所の
一 御所よりは着し折は鈴系る銀一枚
一 祐宮泡内侍所の強供は一多さ生さい一折は初を百疋表使は口上を
系る上御靈社にはそつを金百疋は用りよりにて致非常附使番系る御所
は強供は一多さ丸まん一折二百するくはさいこんぬ一折つゝ生さい
一 折は樽三荷立目錄を系上くのし准后泡え強供は一多さ生さい一折二
種一荷は目錄添關白泡え強供は一多さ生さい一折は使非常附使番は口
上使ははふん親泡え
一 杉そつ十帖は綿十ゆひは縞珍一卷生さい一折二種一荷立目錄にては使
は用掛り取次は口上使をそはするくはと濟をのしうへこは使を系る

- 一 敏宮泡和宮泡参宮泡え強供也一多さ生さ一折つゝ玄んをのゝ中務卿宮泡え強供涉一多さ一折使也口上使使番者ある司入道准后泡え同断也使同断仁門泡輪王寺新宮泡え強供涉一多さこんぬ五十本系る也三頭泡駿河との大乳え強供涉一多さ生さ一折也を埜のすけ泡初え強供也一多さ此れしお八百泡大貳藤坂に強供涉一多さ一折也多くろ
- 一 新宰相泡え強供涉一多さ生さ一折中山大納言も同侍従もお埜以泡同断被下也
- 一 強供涉半多さつゝ有合の也看三頭え被下也聖門泡も盃臺二種一荷玄んをのゝへ宮泡よりも強供^{涉脱カ}一多さこんぬ五十本也口上使にて使番也
- 一 也かんの大臣泡え也表にて也料理也祝也吸物也重看也鉢看出る
- 一 兩役衆え也祝也祝酒出る

- 一 近習一統同小番也免内々外様當番に也祝酒出る奥端非藏人前番當番にて也祝酒下されは大すけ泡初也祝也祝酒戴は三仲間同断附武家也用掛り取次宮泡伺の也し非常附使番取次賄頭勸使詰合也祝也祝酒被下也
- 一 御所も祐宮泡え也看一折也人形一とこ外也也よも看五種一折也
- 一 准后泡え也看一折系る也かんの大臣泡え也ある十ゆひ也看一折奉書にて系る敏宮泡和宮泡参宮泡えハこあさよりハ玄んをのゝ也沙も無宮泡りさより也看一折つゝ上カのゝ所也りつてみより組合にて也精進もちり七種の也看上カのゝ参宮泡も也看一折の所也手つまカのゝ也看三種上カのゝ中山大納言も新宰相泡より三種つゝの也看也きん上祐宮泡に也三頭泡駿河との大乳も也看一折上る按を埜のすき泡初より也看一折進上大すき泡初も也看一折きん上立目錄にて上るもむ一折三仲間一統よりきん上准后泡も二種一荷也看一折外也也よをさり取五種上カのゝ祐宮泡え白ぬま雲也とんは多く也一重也看一折玄んをのゝ

宮内省三種

- 一 關白より盃とい二しゆ一荷をんをのこあは關白より看一折上クの、兩役組合にて看一折近習一統より同斷
- 一 近習小番は免よりする、一折
- 一 中山大納言は世話卿にて看一折進上是ハ返し無一条左府より祐宮はえ人形一とこ系る
- 一 有栖川中務卿宮内省宮内省末をろ一とこよをさり取系る表向は父子はは取一折つゝ系るこんぬ五十本つゝ一乘院は門跡同斷法華寺五十君は方
- 一 妙勝定院宮内省座主宮内省靈りんしの宮内省は多と祝仰入の、近衛大納言はる司左衛門督より看一折つゝ上クの、二条は内、人形一箱はよをさる取一折をんをの
- 一 知門はこんぬ一とこ仁門より二種一荷一条大納言は看一折右

府内同斷

- 一 瑞龍寺はこんぬ五本旨本願寺は取一折輪門は同斷新宮は二種一荷つゝ
- 一 百々御所大覺寺圓照寺宮内省大乗院は門跡よりこんぬ一折つゝ進上隨心院知心院より同斷は寺御所常磐は所は祝仰入の、入道准后より看一折進上

一 今日のは吉刻巳刻ある、午刻過て成ク、三間は中段を、作法有出涉成殿上人兩人役奏致申さる、濟々のて宮内省は出まし遊し、多ちと大すぎは宰相典侍はこんぬの、うへえ成をの、はんの大は、ま、みはをんを左右中は、遊し、くしにて、と遊し、左右中は、遊し、少將内侍は、うき、夫は、こんぬの、うへ、と、遊し、連中へ、入、を、の、ま、く、に、二帖、い、て、つ、し、の、は、を、ん、の、大、臣、は、と、盃、を、の、宮内省北り、こ、に、座、一、条、は、ハ、南、り、ハ、ニ、座、を、て、盃、二、こ、ん、旨、宮内省の、は、こ

いさん少將内侍泡手ある大乳

一一条泡のいさん新内侍泡手ある越後二こんめはくむ出る中段のはえまたもて持来るいさん下段の中程にては盃は戴はてうし両口

いさん役奏もうちた着用濟をのそくに常御所にては盃二こん系る二献め天酌ははさん大すき泡手ある長橋泡之役奏大乳何をもそつまそりはは宮泡ははさんまりのははしにて濟をの

おちぬたつと決しりへは袴にて一のは間にては祝は吸物重肴御上宮泡えも出るはくおしも出るは前にては人形一とこえんをの^{脱アルカ}はする

と濟をの准后泡え宮泡は半まりめし成ふをの口祝は吸は重肴出るは人形一箱えんをの宮泡のは家來え申口にて口祝は祝酒戴よりさるは局にて二帖さいは板えとちにてはえんまりめしはえふさん六膳は湯出るすへり次ははは物六合一こん皆はくむるハ無すへり次は

三こん出るは盃は三こんを一こんニ重のはくむ出るは盃はとをり少將内侍泡は戴

一少將内侍泡はいさんニ附杉も十帖嶋繻子のおもし下さるは手ある大乳は金二百疋下されは尾張えは祝き百疋末のしゆ中間え三百疋は三の間にて大はちより戴よりさるは口祝尾張え戴よりさるは何まはするはと濟をのは祝申入は口祝有

一准后泡上臈三人は乳は年寄えは祝酒被下は宮泡の若ましゆ申口にては祝酒はくおし口祝戴はは祝儀金二百疋下されは大すき泡宰相典侍泡はちニ附は祝儀三百疋つゝ新宰相泡え五百泡お柳泡え三百疋少將内侍泡えは役ニ附三百疋下されは金五百疋中山大納言はは世話卿ニ附被下は役奏の殿上人兩人え三百疋宛被下は御用掛りえ三百疋非常附使番え百疋宛西尾土佐守はある三ひ掛むしろニあ戴よりさるは外をたニ附中山大納言はおははをう人え金三百疋つゝ前中將は侍從え二百疋

つゝおるにせう人見え百疋つゝ新宰相泡か傳への様ことい渡し
 之を親お代しは百疋下り居は乳え三人え百疋つゝ玉淨寶壽百疋
 つゝ是ハ頼を系り居はゆへは祝文戴りさ
 一勘解由小路のお願せう人え附帶一すし被下は今日厨子所かは
 物調進に附四人百疋つゝはるとひの使番え百疋つゝ下掛り兩人え五十
 疋つゝ鳥目五十疋つゝ預り二人仕丁四人同断は祝儀被下は此分は用掛
 りにて致は此分ミあゝ奥か出しは

十七日

一祐宮泡か三頭表使えめて度一こん被下は吸物は硯多さ肴局より申附
 是廻し申は

十八日

一宮敏泡え宰相典侍泡は系り二附は言傳に初作のはくかしまんの
 一今日の残りより明日一日願はて大乳下りはる橋泡越後な肴被

下は

十九日

一有栖川宮泡か見事成生さい一折もし哉と上りの

廿日

一今朝大乳上るは花一寸肴二種上る大すけ泡初えはすもし二重
 たは面上る

廿一日

一涉こい有内侍所は法樂は小座敷に有讀上ケ有出涉成
 一上賀茂鳥居大路の娘はすゝ信樂院に同道にて大乳の局え系のは三
 頭泡は覽有信樂院に兩三日逗留之此度山科誠次郎は扶持拜領のは礼申
 入肴肴一折献上

廿二日

一今日庭の本さん花は覽はるをのゝ小座敷にては當座あふをのゝ

此表内儀は人数之跡を而兩役近習めさる一こん被下はくしも
下さるゝとの本りくゝ賑々之岩野三位なえ思召はて古の紙入
はまを金五百疋の手つりふ被下は

廿三日

一今日信樂院に暇申されは縫取は煙草入金二百疋の手つりふ被下は

廿四日

一敏宮に中山攝津守伺仰出されは今日未刻伺て上臈はをくはは也
へ宰相典侍は午刻過はは系りは言傳をまゝ系は百々御所上臈は初え
はくおし三々本數物三十疋夕方へりは系り先々同様はてはまつ
るにあらざる

廿五日

一有栖川帥宮に教點仰出されは札は系は題は日限は伺有
一祐宮は少々はりを心はててまやくはよしくゝのるうまおんは代系

こゝに札系る

廿六日

一泉山えは代香なり橋は系りは香は花旨庭の本さん上るるう正院との
ちあく百ヶに附^{日脱カマ}大すき泡春宮は方のは仲間にて金百疋つゝ下され
は越後能登る駿河との大乳より二百疋香てんは出ス大すき泡のは
局より出る越後なはと駿河とのハ先は代のは仲間にて大乳ハ仲間
にてハ座おくはへとも何りとくゝ世話に成はゆへ一所に出しは

廿七日

一今朝長橋は上り之

廿八日

一涉さい有今日祐宮は紐直しに附^下内侍所えは肴一折は鈴系るは初尾銀
一枚祐宮はよりも内侍所えは肴一折は鈴系るは初尾金百疋は上涉靈社
えは地赤紅白梅小るふひのは模様のは紐一重はまづ本金百疋非常附使

番にて旨はつ本ハ用掛りにて致は御所え小いさゝや五百十文しの
 比臺之するく一折こんぬ一折比樽一荷立目錄ニくは使若ましゆ之准
 后泡え小いぬゝさ一寄さ比着ー折えんをのゝ所此間か比子細の比所勞
 にく比下りの所少々比せさくニを比清め遊しり比乃さ比上り比ふ
 さん比比上りのうへニをえんをのゝ敏宮泡和宮泡喜宮泡え比着ー
 折小いさゝや一寄さつゝ系る
 一關白泡ぬる司入道准后泡え小いぬゝさ一寄さ比着ー折つゝ系る使番比
 口上使之
 一仁門泡輪王寺新宮泡にこんぬ五十本つゝ系る比三頭泡するゝとの大比
 乳え小戴一ふさ比乃取一折つゝ下さるゝ
 一ゆを拂のすき泡はもしめえ小戴一寄さ比乃取一折下されは
 一比三頭泡するゝとの大比乳より比着ー折つゝ上る按を拂のすき泡はも
 しめより比着ー折進上

一御所え大すき泡始か比乃取一折上る立目錄にて中山大納言ぬ前中將
 ぬ侍從ぬおほひ比をう人の小戴一寄さ比着ー折つゝ被下は
 一新宰相泡え小戴一寄さ比着ー折被下は宮泡か中山大納言ぬ外ニ比着
 五種比樽五さん入被下は御所か宮泡えこさの比服白の比鉢もし比ゆ
 く比地黒紅白梅の折枝小ゆふひ模様のは寄く比一重ゆる白比引ききの
 比さき帯系るなり橋泡より比比口上にて高崎系る午半刻ころ比礼ニ成
 常湯所ニく比盃二こん旨二献め天酌にて比戴ゝさゆさをのゝその比時
 分ち比直衣にてゆさをのゝ濟々のゝて比地黒とめしりへ比さりぬにて
 一の比間にて比口祝比重さりかにて比盃系る比前にて比机一もこ比着
 一折比拜領比くぬし出る九もし成比局にて二帖さい比板えとち比直衣
 めされは比ぬる物六合初にこんぬゆも出る次ニ比いの物出る次ニ比て
 うし出る比く比ぬハ無
 比へり比三こん旨比盃比三こんニ重のゝ何もく比するくゝと濟をのゝ

此といさん少將内侍の杉も十帖嶋縹子のおもし大乳の手あるに附
二百疋被下は尾張の玄うま百疋のあゝ始え三百疋戴りては三間にて
尾張え口祝戴りては祝申入は口祝有

一内侍所はくは着一折系る

一關白は着一折上クの

宮泡え有栖川宮泡が青籠にては五種玄んをの敏宮泡和宮泡より

は五種上クの

一孝養宮泡が着三種上クの

一祐宮泡え敏宮泡和宮泡

孝養宮泡が生さい一折つゝ玄んをのこあさえも一折つゝ上クの所
あふこあさはりつてこよりはよを看る上クのは附兩人がむむ一
折きん上

三仲間

するゝ一折きん上

一紐は桃色のはとんは三頭泡大乳は地赤は模様は袴のすき泡少
將内侍泡

越後

一は心は模様

新すき泡

一黄 同断

おくは泡

一紫 同断

衛門内侍泡

能登

因幡

駿河との

一黄は模様

新内侍泡

一は心は同断

は架

准后泡の

三百五

- 一 桃色の模様 おる次の
- 一 紫 同断 おん本の
- 一 心和同断 おやくの
- 一 黄 同断 大貳
- 一 赤ん本ふ 藤坂の
- 一 古の紐の緋の新宰相のえ同断の桃色のとんに
- 一 紫の模様 お柳の
- 一 地赤の模様 お順の
- 一 桃色の模様 尾張え
- 一 地赤同断 茶阿
- 一 是ハは本をこを被下に 右京大夫
- 一 赤ん本ふ おつる

- 一 地の おての
- 一 紫 おもの
- 一 赤ん本ふ おんの
- 一 非縮緬の紐のよき暇の乳の人のはの多く後の得心こを戴り
- 一 准后のえこさより赤の肴一折えんさの所是ハは上りのうへこのの
- 一 大寸の初の祝酒下されの御表
- 一 關白の兩役中山三人祝の祝酒被下近習當番小戴の祝酒出内々
- 一 外様當番えの祝酒出非藏人詰端の祝酒出申口にておつる初
- 一 口祝の祝酒のくし戴りをし
- 一 祝儀三百疋お柳の五百疋新宰相え二百疋つおつる初戴りを
- 一 物調進二附百疋宛の厨子所え下されれの西尾土佐守えをある
- 一 三ゆひ被下中山大納言おのをさう人え金三百疋つを

取下さるゝ

三十日

一 今日鳥丸なえ古今のいんたんの事仰出されは
 一 准后泡え祐宮泡を紐直しに附小戴一多さ着一折外にほよをさり取一
 折三種まんのの、新宰相泡をほよをさり取三種進上彦所より着一折
 着は使表使に祐宮泡准后泡えは礼に成りせの、直衣に口祝は吸物
 重肴を初は盃まんのの、准后泡よりほよを二疋ほよさけ帯まんのの、
 礼のほよ時分経師より文こ之内紙入ほよを二ツ毛うへ二ツ人
 形入まんのの、准后泡より紐直しは祝仰入の、は取一折外にほよ
 をさり取一折五種上くの、
 一 宮泡のほよ附の衆え准后泡に祝酒被下は彦所より准后泡の上薦は三
 人の乳は年寄の祝酒下さるゝは紐も下されは

四月朔日

一 彦拜有は神供宰相典侍泡をふのほ初穂百疋着朝ほ盃着朝りまの宰相典
 侍泡少將内侍泡越後る系賀は對面成
 一 今日有栖川帥宮泡教點は詠草初に附二種一荷は太^{刀脱カ}一腰は馬代銀一枚上
 くの、坊城中納言る三條西少將る教點詠草伺初は礼ふは着一折つゝ進
 上
 一 彦所より何もく下されは物無帥宮泡えもまんのの、物無
 一 は小座敷え召されはは對面成^{彦脱カ}
 一 今日常丸るはむろ先は附強供^{彦脱カ}一多さ着一折はてうし一枝進上准后泡
 敏宮泡和宮泡祐宮泡参参宮泡え強供^{彦脱カ}一多さ着はれし進上准后泡は返
 し金二百疋敏宮泡は初はあふ二ゆひつゝ下さるゝ新大^{彦脱カ}すき泡長橋泡
 駿河との大は乳え強供^{彦脱カ}一重つゝ系るは返し新大^{彦脱カ}き泡なりとし泡大は乳
 より嶋縹子のおもし一すしつゝ上る
 するりとのするゝ三連上くの、

一 所を焼のすき初え二桶を申口え出る返しするく五連上ぐる
内々此當座ゆきをのく内儀人数之夕りさ盃三こん系る三
こんめなり橋は酌之女中男りさ通有

二日

一 内侍所えは領所のまき初尾者
一 准后はまき系る敏宮はえも同断系る靈りんしの宮はよりまゆんさい
上りの所司代よりゆきん上

三日

一 敏宮はえミ妙覺院は見舞を成ふをのく附こあよりミ妙覺院は
杉折はく和し系る一条左府は此程かよ本とくはまきさくにてゆき
をのくは尋み杉折は看五種は内々のまきにて系る和宮は此間か乳
みは出来物出来りのゆへ高階丹後介伺願遊し今日伺之ゆりく別の
事にてもゆきをのくはちらし薬上りの由申入りの

四日

一 近衛はかみさみ一さる上りのく烏丸大納言は内々看一折きん上
洗菴香十五斤洗甘松八斤上る

五日

一 淨拜有近衛はかみ毎々九こん上りのゆへ杉折はく和し系る掛りの人
えは紙入壹はちよく一ツ戴りをは大すみの守取次致はゆへ是も同断
戴りをは梅仙院はか
一 新清和院は胞衣松石垣出来に附は礼申入は見事成をましやう一もち
進上應修院は系りのは礼申入の梅せん院はえは見事成は人形まひし
やう被下は應修院はは煙草入一組は人形一ツ被下は明日の代香は
表え仰出されは
一 靈妙心院宮は來ル廿六日は五十回忌に附今日引上は法事料はさ
夜にて銀三枚は當日五枚今日は一所に出されは右京大夫は代香はく和

しは香は花旨は心さしのゆくおしも有

六日

一 泉山えは代香は表よりは香はとあ系る

七日

一 敏宮は藤崎使に系れ女中えとて柏のゆちん被下は今日養香八斤洗甘松四斤閏三月三十日ニ養香十六斤洗甘松八斤丁子八斤玄るふはふ五斤をるくさん三斤上る此ゆりすこてとあく上りは

八日

一 和宮ははせさくは尋みゆくおしは乃取三種系る

一 今日女しゆはるとひ久事は奉公人ニ仰附の申口にて口祝戴りては名ハそのまゝと申渡すは三頭は駿河との大は乳えするく一折つゝ至來右ニ附は三頭は駿河との大は乳より金百疋つゝおくりは按を栲のすきは初より白縮緬一疋被下は所ゆりつてみよりは水一疋被下は

一 今日香具のきり有夕りふ葵のは神事入衛門内侍は下りは言傳よは重之内三位なえ被下は宮はえは手遊ひ系る敏宮は昨日のは移りよはすもし上る夕りふ服しやこはりり出さるゝは下り別當典侍はかり橋は衛門内侍は下り因幡なよかる前より局え引申さるゝ惣火りこる

九日

一 彦拜有賀茂下上は法樂有は小座敷にて讀上ケ有出彦成

一 和宮はちの腫物をあくはちりり遊しはに附きよしは祈禱仰附のは内はち仰附のてはよろしくやは世話卿廣橋なより伺有伺え通り仰附のて

十日

一 夕りふ丹後守系れは口明のはりふるく上クのはヒ丹後守え仰附の伊良子めんせのよし筆頭え申渡す

一 彦拜はふせの

十一日

一 涉こゝ有内侍所之當月之儀系り有也初穂銀一枚系る和宮泡え右京大夫
系のゝ言傳よはく和し系る

十二日

一 今日小涉所にて也當座三十首あふせのゝ出涉成はく和し

新櫻川おくふまん

一 有栖川中務卿宮泡方廣橋大納言ぬ綾小路前大納言ぬ額字書道來月下
句と仰出されは

十三日

一 涉神事取りて修日也精進之

十四日

一 涉こゝ有今日也香具のたり有來ル十九日別殿にてあふせのゝ所は丸火
入る改りへあ致し仰付のゝ來ル廿三日ニ成クのゝは表尾張え仰出さ

れは

十五日

一 涉こゝ有岩清水也法樂也小座敷にてあふせのゝ出涉成讀上ケ有也膳朝
也精進之

十六日

一 と取し

十七日

一 とあし

十八日

一 准后泡方涉神事中涉機嫌伺クのゝは香五種上クのゝ
一 中務卿宮泡方也庭の也中先祐宮泡え上クのゝ

十九日

一 今晚も也老いせぬこゝ手あし下るゝ少將内侍泡下り之

廿日

一 今日をよしりきゆふをのり手さけ之内ニ金五百疋入は茶文こに白縮緬一卷今日ハ二ツニ

一 祐宮の方ハ硯笥のみ金二百疋上クのり^{事脱カ} 夢宮の方ハ同断上クのり

一 准后の方ハくし上クのり女中一統よりもくし上る夕りさ九火入内侍所えハ鈴系るハ初穂銀一枚旨はくしの湯行水系る今日賀茂両社より葵りはふきん上例えハ通りハ表え出るハ内儀もりきふをハ賀茂両社ハ撫物一箱つゝハ初穂銀二枚つゝ取次ハ使ニ旨今日出し置ハ

廿一日

一 是當日ハ心を卯刻ニ三刻前奏聞卯半刻前參内殿え分とへ衣にて大はち廻りハハ覽をのり返し給ふ内侍所ハハ鈴系るハ初穂銀一枚系る^{御脱カ} 強供山かしまにて系る辰刻前ハ表くし言上ハ程のふ
出移成ハ服ハ手水女房のハ沙さ之入移ある辰半刻頃えんこつ出移成祐

一 宮の准后の成ふせのり女中衆三仲間もこハ見ハ

一 今日ハ祝敏宮の和宮の夢夢宮のえハ重にて大はちのえ

一 准后の祐宮の小移所にてハ祝ハ一所ニ出るハ夕ハ膳出るハ祝も出ハ女中一統より南をさしにてハ祝戴申ハ

一 表召されハハ繪りるさ有ハ跡ニあはくし下されハ

一 祐宮の准后のえはくしえんをのり宮のりさえもはくしクのり女中一統えはくし下されハハりくをん所にてハ間物出る女中衆もハ前にてハ戴ハ

一 申刻過ハ祭りハするハと濟をのりハ表ハも言上取次系のり

一 神事解のり葵りはふとら^{事脱カ} 手ハ服しや上のり重多くはりさ

ハ明日上のり少將内侍のり上りハ花進上

一 准后の方ハ神^{事脱カ} ときのハ肴一折上クのり

廿二日

一今朝別當典侍の長橋の衛門内侍の^上り敏宮の^方に^多み^て浮機嫌伺
ク^の和宮の^方も同断和宮の^方に^多さ^くの^方浮機嫌伺^ニ女中より^三種上る

廿三日

一敏宮の^方に^神事中^に遠く^しく^るを^のく^はく^し二色^の着^二種^をん
を^の今日^に香具^に詰^有准^后の^方に^重之^内戴^は
一壬生官務の娘來ル廿八日めて度上^の様長橋の侍^に使^て仰出^{され}
は^面會^て請^申入^の表^口向^えも仰出^{され}
す^くふ^官務^奏者^所に^請は^札右^京大^夫を^もつ^て申^入有

廿四日

一今日^に常^に殿^に参^りし^こ

廿五日

一今日^に服^くこ^り例^之に^通り^に重^之内^戴は

廿六日

一泉山^の代^香宰相^侍の^方に^系り^に香^花香^靈り^んの^宮の^方に^はく^し
一輪^門の^川原^の殿^敏宮^のに^留成^らを^く度^に願^はる^をの^く仰^出さ
れ^はへ^こ内^に請^有

廿七日

一今朝宰相^侍の^方に^上り^し
一輪^門の^川原^殿召^{され}れ^は事^傳奏^衆を^申渡^{され}は^へて^表向^に請^有敏^宮の^方に^え
も^世話^卿より^申入^の宮^の方^に輪^門の^方に^えは^埃摺^れは^使系^る

廿八日

一朝^に盃^を今日^に官^務の^娘お^ろ年^{十二}才^取る^は十三^才ニ^致下^薦ニ^召出^さ
れ^は奉^公人^ニ仰^付の^命婦^ニ仰^付の^て名^を今^系ト^下さ^れま^くに^清支^湯致^申され^この^鉢も^しこ^の大^腰の^袴と^へ衣^ニ系^は宮^系
系^りに^常の^に湯^殿を^系の^濟は^て常^所ニ^てこ^んぬ^はこ^の盃^一こ

ん下されぬ濟んで一之世間にて世對面成申口にて世口祝こま窓袴一領
 こたの鉢もし一疋世紅一疋下さるゝ世札申入のゝ世肴一折進上
 一准后泡え世札二系のゝ下こふふへの小文うへこたのそつ支袴にて
 系のゝ世對面ハ世仕舞中にてゆふをくゞの櫻の世間にて世口祝世祝酒
 下されぬ今日召されぬ命婦名今系りト下されぬ事は表口向三頭えも仰
 出されぬ世話親大世乳之
 今日三ヶ日間世認戴申さるゝ
 一今日上りのゝ附大すき泡新大すき泡なり橋泡するゝとのえ五種の世肴
 一折按を袴のすき泡世初の五種の世硯多ゝ肴上るゝ
 一むちりめんのおもし一すしつゝ越後ぬ能登ぬ因幡ぬぬえ附帶一す
 し駿河とのえ上るゝ
 一今日上るゝ世節髪見ふぬゝゝゝへのはをせぬいとりの
 一輪門泡川原世殿敏宮泡は世引渡しに相成ぬ

廿九日

一昨日正親町大納言ぬよりてかほるぬ内々きん上今日世くおし下されぬ
 一輪門泡川原の世屋敷きん分こ長こし泡大世乳藤崎花崎御用掛り始三頭
 も系のゝ世くおし世間物持系る

五月初日

一淨拜有世神供大すけ泡世系向きふの世初穂百疋者朝世盃者朝り世ぬ大
 すき泡少將内侍泡因幡ぬゝ系賀世對面成祐宮泡え世けり世ぬし水こ
 鯉一本花紅葉一本せくきにうさた一本菊こまうまこん一本まんをぬゝ
 世使高崎者世三頭泡大世乳よりゆりふと一りしら世長刀二本上る駿河
 とのゝ世長刀一ふり上るゝ
 一准后泡方世ぬし一本をさぬ一もこまんをぬゝ新宰相泡をゆりぬと一り
 しら世長刀一ふり進上夕りゝ世盃世三こん者世三献ぬ長橋泡世酌之女

中男りさし通有り

二日

一 涉とい有内侍所え當月のち系り有初穂銀一枚ち肴一折系る今日ち香具の詰

三日

一 涉拜有今日ち延引のあうまんのちくし有夕方ち備へ上るは膳ちちりゆ出るはくしのち初尾白木のち小ふん後上るはくし取あふをぬ

四日

一 中務卿宮を廣橋大納言ぬ綾小路前大納言ぬえあく字そふてん來ル廿四日巳刻と伺クの伺え通りと仰出され

五日

一 朝ち盃肴系賀ち對面成
一 朝りむる宰相典侍を少將内侍にたとぬ之准后をち節句のちまうた仰

入のちま一折二種一荷上りの敏宮を和宮を孝善宮をよりかとい一
そこつゝ上クの祐宮をち節句に附かとい一そこ外にちよを肴三種
上クの涉所方もち肴三種をち使下さち之准后をち使少將内侍を
ちさき帯一すしちすしうかちみ本ふひ袋をそへ使右京大夫之敏宮を
一和宮をち絹一疋つゝちみ本ふひちくろ系る祐宮をち絹一疋ちみ本
ふひちくろち藥玉系る孝善宮をち巻ぬ一疋ち藥玉を衛門内侍より
ち藥玉進上り返し二百疋被下

一 准后を祐宮を孝善宮をい一そこち藥上クの宮をちかか
い一そこつゝ系るち使若ましゆ系の申刻頃祐宮をち礼に成ち口祝
ち重肴をちちさりつち肴はくし出るは盃の時分ち拜領のち藥玉附の
祐宮をちち本りち覽にち出涉成宮をち花生一ツち薄板一枚ち手ゆそ
ち物三品そへち夕りさよりち一こんをち賑く之
宮をち大すけ初えち硯をち肴戴はこよひのち盃は三こんをち三こん

め長としは酌之女中男りは通り有女中汁は小盃は通り有准后は少くはせさくにては出座無

六日

一 泉山えは代香は表よりは香はとあま

七日

一 今日のみまひ多くろ關白は初え職事は使にて来る今日觀行院は系りこそ女中えとてすまし下されは申口にては認一こんはくあし出る和宮泡え一寸くは言傳よは矢二箱系るといくは人形一ツ觀行院泡え下されは

八日

一 今日傳奏衆え此度高階三河守福井久野伺仰出されは筆頭えも心はよ申渡ス

九日

一本願寺より月夜上る兩役は衆え出る孝順院泡秋くむん院泡え月夜下されは

十日

一 とあし

十一日

一 涉拜有神宮は法樂小涉所え出涉成讀は有

一 梅小路は元服に附二種一荷進上

十二日

一 鳥丸大納言は古今開見するくはと濟はに附二種一荷進上こあふよりは肴一折奉書にて下さる今日越後能登は伊賀は大は乳よりは祝申入鯉一折は肴一折上る

十三日

一 泉山えは代香は表は花は香は桂宮泡成正覺院宮泡は五十年は忌に附

此法事料白銀五枚出されし福井久野高階
去もん相すまは由傳奏之内申入の

十四日

一帥宮泡より此乃取三種上クの

一今日三人之いし來ル十八日午刻伺之事儀奏衆え仰出されし筆頭えも此
内意仰出されし

一儀奏衆方此請の事申入の今日あう正寺より月夜上る兩役の衆え出ス
兩宮泡え月夜系る此庭の梅少くつゝ觀行院泡蓮觀泡信樂院え下され
し

一内侍所え當月の此すゝ大すき泡新大すき泡少將内侍泡大乳より此き
る此くは進上

十五日

一此拜有岩清水此法樂小彦所え出彦成讀上ケ有

一内侍所此此鈴宰相典侍泡新内侍泡此今系泡越後能登るより上ぐるゝ
此くは進上

十六日

一彦拜有内侍所え此鈴新典侍泡此此伊賀泡駿河泡方上ぐるゝ此くは
進上所司代より月次此乃取一折きん上

十七日

一今日上下彦靈北野平野社此湯立駿河との系力此初穂例之通り系る

十八日

一今日福井三河守高階筑前介久野長門介天ミやく拜しん午刻此小座敷こ
て伺有儀奏衆新ろう下まで誘引之夫方大乳誘引致し此するゝと伺
濟二度目の伺有まゝおつてと仰出されし

一今日祐宮泡伺山本安房守伊良子陸奥守高階丹後守山口豊前介來廿七日
未刻ト仰出されし山本典藥大允泡申渡ス

十九日

一 仁孝天皇様口のちもつ善淨あるく所勞之所との本りくむつりし由にて觀行院より申入の右に附白銀二枚被下は當年中の扶持戴度願出傳奏衆え出されは

廿日

一 涉拜有庭の柏にて成クのち多ちん入道准后の妙覺院のちえんをのち新大すきを神系り願にて下り大すき初より看の精進まちり五種めて度上る此内長橋の衛門内侍の能登るハ別

廿一日

一 涉とい有内侍所法樂小涉所へ出涉成讀上有此度鳥丸大納言な古今開見するくと濟はに附札申入の夏二枚折屏風二双看一折きん上新大すきを上りの節考宮のち系りに附言傳より手遊ひ物なるく堀川のち看三種下さる

一 夕方上りのちをか看二種の品物進上大すきを初はくむし看すもし下されは

一 ちみ得ひ多く依無地二百四十二と取く出る

廿二日

一 と取し

廿三日

一 敏宮の藤崎系のち大すきを初は看戴はうつりて團扇七本上る

廿四日

一 今日有栖川中務卿宮より廣橋前大納言な綾小路按察使の額字の傳授に附看一折奉書を看廣橋前大納言な綾小路按察使の看一折つ奉書にて下さるは兩人よりも看一折つをん上有中務卿宮のより看一折上ク

一 此度少納言の所勞追むつりし由にてちみつみ銀三十枚下されは

大乳方傳へは

一 准后泡方銀十五枚敏宮泡より銀十枚別段金五百疋是ハるく別ニ世話ニ成クのくゆへ宮泡思召泡ニ下されは和宮泡方銀七枚祐宮泡同斷下されは

一 孝参宮泡より銀三枚被下はいつきもく大乳より傳へは様との事ニ承傳へ申は當年中の知行此をつ拜領の願書長橋泡え出る傳奏衆え出されは

一 こかゝ好泡の越後紅地一反外ニ上りは白地一反准后泡え旨

一 敏宮泡え上りは白地一さん

一 和宮泡え好泡は白地一反系る

一 大すぎ泡は初えはくして被下は

一 准后泡方好一反外ニ一反上クのくはてんくしニ成こかゝの地染宰相典侍泡准后泡好一反

少將内侍泡梗挾りすり一反

越後ぬ戴は之

廿五日

一 坊城一位を所勞との外くむつりしは由外あふぬ人ゆへ内く尋ニゆくおしは香三種新大納言泡方傳へニ成

廿六日

一 泉山えは代香なりとしは系り香はか坊城一位を遣くむつりしはニ附は見舞新大すぎ泡新すぎ泡下り之

一 靈りんしの宮泡え祐宮泡よりをしやと杉折はくおし旨

廿七日

一 今朝なり橋泡上り今日樂もん所ニ承は當座二十首出涉成はくおしむさし野椿もち

一 按を埒のすぎ泡あるくは所勞にて下りの所追と心よく今日局

まては上り大すき泡は初に見事成は臺看糸る外には硯多さ看九もし大
すき泡大は乳え下されは

廿八日

- 一 朝は盃看賀茂下上は法樂
- 一 小淨所え出淨成讀上ケ有
- 一 按を埒のすけ泡は三種の泡看一折進上今日一寸く淨機嫌伺は出
は所少くきさくくは出まし無寂靜院泡久くは淨機嫌伺は糸り
まのふ進上
- 一 祐宮泡え江戸繪進上は對面成紫縫取は煙草入はまをる一本は盃下さ
れは祐宮泡よりは人形一ツ硝子とつをり一被下は認九もしはくはし出
る來月のは神供内侍所え附の

廿九日

一 淨拜有

六月朔日

- 一 淨拜有は神供内侍所は附の今日は代糸大すき泡えまふのは初穂金百
疋糸る
 - 一 朝は盃看朝りまの大すき泡少將内侍泡はまふ
 - 一 糸賀は對面成准后泡よりまふのは祝儀仰入の泡看一折上クのく本願
寺よりは挑燈五張は看一折きん上
 - 一 夕りは盃看三献看は三こんめ長橋泡のは酌之女中男りは通り之
- 二日
- 一 淨拜有内侍所え當月のは糸りは初穂銀一枚看
 - 一 今日午刻土用に入准后泡より淨機嫌伺クのく泡看一折上クのく准后泡
宮泡りはえは先をり糸る
- 三日

一 准后泡の暑中尋ふは肴一折有柄川泡父子泡を暑中ニ鯉一折つゝ進上桂彦所を先進上諸司代より本まし一とこきん上泡附兩人よりも同斷きん上有

四日

一 敏宮泡百之彦所より此度輪門泡の川原泡殿え泡引移り卯半刻頃宰相典侍泡越後なるむむいニ泡系り三頭も系れ彦所より泡言傳ふ此文こそ内ニ紫あらしはちゝみ一反銀地泡すミ取泡紙入一組金千疋まんせのゝ外ニ泡硯多々看水せんまは十疋系る百之彦所上薦泡としめ水せんまき十疋下されは

一 宰相典侍泡越後なるより

一 白沙河カカ不明饅カカ泡十疋上藤崎始え寒月五袋百之御所上薦泡初え泡まん百泡ミやみ系る

一 川原泡殿え三仲間を壹人つゝ泡先廻り致は辰半刻はするゝと川そふ

泡殿え成ふせのゝ事泡用掛りか言上泡世話卿よりもはするゝと成ふせのゝ何ぞゝ泡動し泡まはふをゝ泡ははは事申入のゝ宮泡ニ泡世話卿ニ何りとゝ泡世話とま泡申入ニとて金三百疋はさふし一疋被下はは礼泡申入之宰相典侍泡越後なる三頭もりへり系れゝ宮泡何のゝゝ泡動し泡もはふをゝ泡はは満そく泡の泡るう子泡申入之泡言傳まはろゝ泡世話ニ成クのゝとて大すけ泡長そし泡大泡乳おそふゝへ紅一反下されは

一 宰相典侍泡越後なる泡紅一反金貳百疋つゝ泡戴は之三頭え泡祝儀二百疋つゝ梅さるゝよしえ泡先廻りニ附百疋つゝ下されは

一 左府泡を暑中ニ鯉一折大納言泡をすまは一折進上

一 近衛大納言泡を肴一折進上夕りゝ別殿小彦所え出彦成泡盃泡三献泡は三こんめ長橋泡泡酌之女中男泡通り有

五日

一 敏宮泡方昨日此札用掛りをもつて此札仰入ぬ

六日

一 泉山え此代香此表方此香此とある

七日

一 暑中の此返し近衛大納言泡一条此父子泡有栖川宮泡此父子左衛督泡伏見泡松宮泡よし若泡え此着一折宛奉書にて出る敏宮泡百々彦所え此逗留家此挨拶ぬ

一 此室の此もみ料として銀廿枚上臈の金五百疋此さゝし一疋一臈え三百疋此ささし一疋二臈え二百疋此はさし一疋此次尼兩人え金百疋つゝ此はさし一反つゝ侍分末々まで銀三枚中大路衛門の別段百疋石川多仲え別段二百疋被下は是ハ此用掛りえ右京大夫より渡ス此世話卿廣橋大納言ぬえ何りとゝ此世話申入えて三百疋被下は用掛りえも二百疋外ニ此供奉ニ附此用掛りぬしえ二百疋つゝ下されぬ

八日

一 聖門泡え此ささし二疋此りそ本り系る敏宮泡方此使藤崎系の宮泡弥此よしゝ泡こ何ぞゝ此動し泡もあふをぬ此此よろし此所にて此満そく泡こ此此礼仰入ぬ度あふをぬ此事申入ぬ夢夢宮泡え此う拂和三本えんぞぬ

一 靈りんしの宮泡瑞龍寺泡暑中此りへしこ本もし一折つゝ
一 圓照寺宮泡の夏切一もこ者奉書こあ出る

九日

一 今日妙莊嚴院宮泡此祥月ニ付泉山え此代香此表より此香此花系る此備へ銀三枚旨取次え渡ス今日修日此膳此精進女中衆も心々精進之關東より此茶えんきん例え通り此表え出る

十日

一 關白泡中納言中將泡え暑中此返し此着一折つゝ奉書こある

一 織若^下泡え暑中^中返し^中肴一折^肴聖門^泡え夏切一^こ返しに^系座主
 宮泡^泡本もし一折^肴仁門^泡より暑中^中多り一^りこ上^クの^ク
 一 仁門^泡の^泡は^えし二^疋は^り本^り肴

十一日

一 今日より兩役衆近習え^泡は^えし一疋^宛下^{され}れ^泡

十二日

一 ^泡は^えし一疋^つ、梅仙院^泡の^泡初^心淨院^泡の^泡觀世院^泡え^被下^れ

十三日

一 泉山之^泡代香^泡表^泡の^泡香^泡こ^系る

十四日

一 今日^泡誕生^日の^泡附内侍所^泡の^泡鈴^肴初^穂銀^一枚^系る^泡肴一折^肴は^くは
 肴^上下^湯靈社^えの^泡代系^駿河^との^系の^泡初^穂銀^一枚^つ、^系る
 一 准后^泡え^泡ちん一重^肴肴一折^肴使^表使^之敏宮^泡和宮^泡祐宮^泡の^泡孝^考泡

え^泡ちん一重^つ、^系る正親町大納言^え泡^{ちん}一重^肴肴三種^大す
 き^泡多^こて^戴、^りを

一 准后^泡の^泡肴一折^肴よ^を肴五種^上ク^の、^宮泡^りよ^りする^一折^つ
 上^クの^ク外^之敏宮^泡和宮^泡の^泡組合^こく^泡よ^を肴五種^上ク^の、^泡精
 進^まち^り之^祐宮^泡の^泡肴三種^上ク^の、^泡ちん^泡表^泡内儀^三仲間^口向
 泡^祝出^るの^泡臺^肴申口^え出^る竹^湯所^より^えおん會^こる^より^むま^二こ^進
 上

泡^夕膳^こ出^る申^刻頃^泡誕生^日の^泡盃^肴は^る、^一、^泡硯^寄も^り出^る
 一 こん^肴通^り有^大泡^乳別^この^泡盃^戴は^えおん會^はつ、^この^泡盃^一こん^出
 る^泡通^り有^きおん會^とは^一所^也へ^りを^袴こ^てハ^泡座^無何^きも^ま、^しう
 少^こり^はえ

一 按^を拂^のす^き泡^所勞^はよ^ろしく^泡湯^出來^泡延^引の^泡地^行衆^はそ^つ本
 進^上夕^方より^泡一^{こん}こ^るは^賑、^一、^こ

十五日

一和宮泡明日日月見覽ニ附今日申刻頃かまそし返留ニ成ふぞゆ
 一仁門泡え暑中の返しよ夏きり一もこ系る二条泡え一折返しニ
 奉書にて系る

十六日

一和宮泡月見ニ附内侍所泡初穂百疋一折系る
 一上湯靈社え泡もつ本百疋旨
 一湯所泡赤飯 壹荷
 泡文あ一折てうし一枝献上
 一准后泡え泡看五種一折系る
 一敏宮泡祐宮泡夢宮泡え赤飯一多さつ泡看一折つ旨
 一關白泡太閤泡有栖川宮泡赤飯一多さ宛泡看一折つえんぞゆ仁門泡
 え赤飯一多さこんぬ五本^{十股カ}一折系る

一輪王寺新宮泡え同斷
 一赤飯一多さつ泡看一折つ泡三頭泡駿河との大乳泡被下は
 一赤飯一多さ泡のし按を端のすき泡初被下は同斷泡看一折觀行院泡え
 下されは同斷橋本宰相中將同大夫泡おる泡泡さう人同斷泡のし小倉
 大夫泡赤飯一多さ泡看一折つ廣橋大納言泡う松中納言泡おる泡
 大貳え赤せん一多さつ泡のし旨
 一こわく泡半多さ宛尾張
 下さるゝ

茶阿
 右京大夫

一和宮泡ええんぞゆ物
 一判金二枚泡小机一もこ泡看一折使高崎へ
 一泡内銀三十枚泡看五種一折
 一泡地黒泡りさひさ一重本さん櫻本ふ尾泡模様使下も下さち觀行
 院泡白繪子一反金五百疋藤泡ち三百疋

も此前にてはくじし祝申されれ重多くのりさくハ申口にては祝之也
兒也兩人おくは泡大也乳始申口祝申也

一女中一統水さん戴申也

一和宮泡也月見ニ附也祝也祝酒女中一統三仲間口向宮泡の伺えいし一同
え也祝酒被下也

一也表關白泡兩役近習當番橋本な父子也世話卿兩人也祝酒下されれ桂宮
泡諸大夫近習その外當もん汁也祝酒下されれ

一申刻過和宮泡え常彦所ニる也盃二献者宮泡夏のちま也板引の也袴
也下也まゝしうふニ也附帶之也くし也也ふも也盃二献者二こんめ天酌
之濟クのく一ノ也間ニる也重看ニて也盃系る也く和し出る其の也時分
也拜領の也地黒也そりは之也前ニて也小机一もこまんとぬ藤也乳は
長橋泡も也盃下されれ所也重服ゆへ少將内侍泡之大也ちもうちま之也
盃三こんくも大也乳之申口にて藤也乳初也祝也祝酒也く和し戴り

さい

一和宮泡也本也ニる也祝也盃二献者也う袴也二疊臺也板也と也之也
いさん少將内侍泡也手なる大也乳系る何もくはするくとの也事初
夜過宮泡月也覽也拜領の也地黒也袴之花鳥の也間ニて也覽也まんの也
といせん少將内侍泡大也ちもまん持系るもぬ無一寸く一献系る
宮泡も也見事成生作一さい也設ニ出來クのく也看大すき泡えおくふ也
ぬ

一橋本な方宮泡え上クのく也臺看も戴也生作少も戴口向の也そやしの人
々也出しは橋本な方ハ兩役の衆近習出し申也

一戌刻過參内殿ニて口向の人々の也そやしゆふをぬも賑く之兩役
也附も拜見有兩役の衆也看三種也外屋之也く和しも被下也
一也するくと濟クのく卵半刻之今日宮泡より也祝儀金二百疋宛

一也三頭泡駿河との大也乳は戴也ゆさふし一疋銀三枚觀行院泡

一金百つゝ三頭え二千疋あゝ一宗女茶くみまて下されは二百疋藤乳
 百疋つゝ若きしゆ三人五十疋観行院の眞命一人鳥目五百文つゝ仲居
 二人下部二人観行院の下部一人
 一百疋つゝ妙香院寶珠壽性院
 一五十疋つゝおのぢおきの橋本ぬ雜掌一人は百疋二百疋つゝ藤木典藥權
 介筆頭兩人は高階安藝守百疋つゝ伺えはし百疋つゝ中詰一人同斷使
 番二人五十疋つゝはるとひ使番二人下掛り二人え鳥目五百文つゝ預り
 三人仕丁四人はるとひ仕丁二人え被下は此分ハ用掛りて致は
 一關白は宮はえはよを肴は盃臺は衝立一もこえんをの
 一准后は肴一折は衝立一箱えんをのは世話卿は兩人より肴一折
 組合て進上
 一豊岡は月見は附は肴三種きん上は返しは金五百疋つゝを紙入一組は
 りをふり一本は手つりは大は乳が下さるゝ紫をふらへ一反するゝ

三連進上申は

十七日

一今日日系豊岡は大ききは初えは硯多は肴系る昨日之所は取込て
 今日系る大ききは初よりは肴三種は返しは大は乳は強供^{脱力}一重肴 明
 日越くはへ仰出されは観行院はえ明日著用のるうとありしちゝみ一
 反は手つりは下されは

十八日

一今晚越くらへはは辨當之准后は和宮は祐宮はまは辨當之女中も観行
 院はもは辨當之は賑は

十九日

一新清和院は祥月は附は備へ銀二枚梅せん院はえは花一筒せん山え
 廻りは

廿日

一和宮泡今朝初て月水出クのめて度く右に附赤のちちん一重
 上クの一すく先附出来ちんニ出る大すき泡初えも戴は今年ハ
 ちおせり仰出されはちおせり子えちりさ八疋はさし出しはるははくそ
 る當年四十才ておとり子めんをの

廿一日

一涉拜有延引の石清水法樂小座敷にて讀上有朝計ちせんは精進之
 關東より進きんの

一水きとふ内侍所えは初尾系る

一准后泡え水きとふはう地和太五本小七本敏宮泡和宮泡え同斷はう地和

大三本小二本祐宮泡え今年ハはう地和も同斷系る

一孝養宮泡え水きとふ計る

一關白泡水沙とふ系る今年ハ入道准后泡近衛前左府泡も同斷者觀行院泡
 ちこしめ水きとふはう地和一本つゝ系る運觀院泡知光院泡運正院泡弘

誓院泡梅仙院泡蓮行院泡え水きとふ計被下は傳奏衆は附兩人被下は今
 日觀行院泡初三仲間ははえし下されは運觀院泡初知光院泡初は
 はふし一疋宛出る長橋泡子細のち所勞にて廿日之間は引籠のち届ケ出
 る

廿二日

一涉拜有氷無瀬宮例えは通り修日^ては精進之

廿三日

一涉拜有賀茂下上は法樂は小座敷ニ出涉成讀上有

一今日涉領所のち准后泡祐宮泡は使表使之敏宮泡えは物書のち多ニ
 ち和宮泡はち中ゆへ表使にては傳奏衆えも出る

一今日和宮泡申刻頃還涉乍何りとくおそく成クの初夜ニ成クのち
 手つりち赤地は角取紙入一組はまをた一本は文ちん一ツあさりはちり
 むさし一本は香こは人形一ツ入系る

- 一 桂彦所えとて見臺一箱も視多し看系る
- 一 觀行院泡え銀地煙草入也盃也まをた一本也人形一ツ也手つり被下也藤也乳也
- 一 也はえし一反也人形壹ツおま始え同斷つ戴り也
- 一 祐宮泡方ぬぬう也ん二ツ毛うへの鉢すみえんをぬ
- 一 觀行院泡え煙草入也ふう也ん一ツ下され也
- 一 竹彦所上臈泡小上臈泡祐宮泡え也系りて宮泡也對面成小上臈泡え也さふし一疋也人形一ツ上臈泡え也紙入一ツ也人形被下也
- 一 彦所よりも毎々ぬろく上ぬゆへ煙草入也まをた也人形下され也也用掛りより也するくと還御もふをぬ也事言上

廿四日

- 一 昨夕より少々風を泡こく也何れ也藥也りん申され也
- 一 妙法院敦宮泡此度也室也相續也弘二附也太刀一腰也馬代銀一枚三種一

- 荷也きん上敏宮泡初ぬをい一もこつ、也樽代二百疋つ、系る敏宮泡和宮泡祐宮泡孝善宮泡よりむ一折つ、非常附使番也口上使也
- 一 彦所より三種一荷取次也口上使也る也三頭泡えをい一もこ金二百疋駿河とのえ百疋大也乳え二百疋被下也三頭泡方をい一もこつ、也看一折駿河とのをい一箱也看一折大也乳より上る
- 一 伏見兵部卿宮泡方也相續也付
- 一 也看一折進上織君泡よりをい一もこ進上也返しに同斷使番也口上使也織君泡えハをい系り不申

廿五日

- 一 聖廟也法樂小彦所にて讀も有少く風をこて出彦也沙も無今日天神りを例也通もるをぬ

廿六日

- 一 泉山え也代香宰相典侍泡也系り也香也も系る

廿七日

- 一今朝宰相典侍は上りて
- 一准后ははせさくは渉機嫌伺くはくおしは肴上ク
- 一關白は入道准后は前左府はは渉領所のはゆ旨は内々のはみこ
- 一敏宮は准后はえをとりはゆ旨
- 一親行院は秋くはん院は孝順院は知光院は蓮正院は弘誓院は梅仙院はえは領所のはゆ旨
- 一ミ妙覺院はえもは内々のはみこをえんをの

廿八日

- 一今日關白はは系りて新大すきはえは面會にて大は乳系りは様此度儲君はは乳人おもしろしは人は座あくは下因幡は女藏人を免さの儲君ははちの人よ仰附のは内意仰出されは大は乳誠ふく大におとろま入りは

廿九日

- 一今日辰刻は三間ははは辰刻は廻りははきうし有はきうしのりさくは夜しよく被下は初夜前ころ竹渉所は近邊出火は付は尋のは使者三角もちりくは尋戴さりては
- 一來月の御神供宰相典侍はえ抑出されは

三十日

- 一水無月は三間ははは辰刻は廻り土御門ははるき上る
- 一竹渉所は昨夜は近火は尋のは礼申入のは三角よりもは礼申入は儲君はのは乳人よ因幡は仰附のは事内々大は乳より申はへとも大におとろまとてもくはつと免不申よろしくは斷申入度と申されは新大すきはえ右えよし申入は所仰入のへともさひくは仰附のは請申入はるうとのは沙さておして仰出されは先々は請申入のは里りさ方もは請申入は酉刻ころ清もふひくしは事言上仰出されは今日ハは床もふひ被遊

此用心泡にて此清めを祈るるをのり奏聞の内侍泡をへ衣を祈り廻り
 之は清まらひ有出渉の由多さりり此盃の由催し申出ス朝りをもるを此
 和よ入クのり入涉成
 准后泡此三間中段を祈り此入クのり女中衆も此入申され此表衆
 をさしにて此入申され此盃二献旨女中男り此通り有おくは泡此
 兒駿河とのハ申口にて此入申さるゝ

萬延元申年

七月より

十二月中

の 光

甫子

七月七日

一 御繼代儲君の治定

同 廿三日

一 御常の殿の修服御樂もん所えの所りえ

八月四日

一 儲君の九月下旬立親王宣下仰出され

九月十七日

一 知門の弘メ同廿三日關東の抱うしの弘メ

同 廿四日

一 妙門の弘メ

同 廿八日

一 儲君の立親王宣下

同 廿九日

押小路甫子日記

一親王の礼ニ成

十一月七日

一知門の養子後の礼ニ重惜

同 十一日

一孝養宮の涉髪置

十二月廿七日

一和宮の關東への縁組の治定

廿八日

一涉所のうき明の祝

廿九日

一知門の入寺の得度

七月朔

一涉拜の沙々無内侍所の神供宰相典侍をふの初穂銀一枚をくはる朝の盃系る朝りをも宰相典侍少將内侍のふもる

一准后のよりまふの祝儀仰入のし着一折上クの

一こよひの盃三献の三献め少將内侍の酌之女中男は通り有

二日

一准后のえ西瓜三ツ大の乳の口上にて極き敏宮の和宮の同斷多みて上る

一有栖川宮の領所のゆめ蓮觀院の信敬院の妙染院の蓮業院のえ下されぬ

一綾小路の烏丸のゆ被下ぬ烏丸の西瓜五ツ進上

三日

一二條大納言のえしやと杉折はくおし系る來ル十二日

中元の祝儀は表は内儀口向え仰出されし

四日

一豊岡中務權大輔の事當益十四日きりて日系免をの事儀奏衆え仰出されしは請有は里らさえ前々大は乳方も申し

五日

一とあし

六日

一今日門院は祥月ニ附修日膳は精進之女中も心々精進之
一泉山えは代香宰相典侍は香はもあるは水向は一所にて大すきはは氣り越後なるも氣ふれはは備へのはくかしは心はしも有は馴染の女中から花上る泉山え銀二枚は備へて出されし
一敏宮はは機嫌伺のは菓子上りの准后はより同断上りの
一儲君はは治定のは事は先例は内々は内意はをのへとも此度ハハ

まは内意今日も仰出されはと申は事承りはゆへ新大すきは申入はへと何の成左様を事あふハは内意仰出されはは沙さにて明日申渡スは表えハ申^{不脱カ}及とは沙さ之三頭汁え申し

七日

一今朝は清めの湯はをの朝は盃を氣賀は對面ある朝りを見る宰相典侍は少將内侍は因幡なる
一祐宮は敏宮は和宮は孝善宮は准后はえはちの和りのは使は下さち之
一祐宮はは礼に成は重看にあらは盃は左之は方にはちの和を附くの敏宮はは初初ををい一とこつ、上りの
一准后はは看一折上りの
一准后はは宮はりさよりをい一とこつ、まんの、仁門はは初方こんぬ一とこつ、上りの
一申刻比は三間にては梶被遊すみくの、は梶とへは渡し之は表え持出

る六位え渡ス

- 一 准后泡え硯の使右京大夫系の此度祐宮泡事
- 一 繼代儲君泡ト稱をのし事内々内意仰出されは三頭え申渡ス口向へハ右京大夫を申ス本願寺よりふふ一そこ焼燈進上近衛泡より今朝も使有七夕待ててゆくし物有ふふ事此度衣鉢向何もくりそりは附地白のりふひふ一ツ金十五両すくひに下されは此度四辻ぬのをもしお柳泡儲君泡の上薦に來ル十二日召出されは事儀奏衆仰出されは口向申ス請有
- 一 夕りふ盃三献者三献め少將内侍泡酌之女中男りふ通り有

八日

- 一 若宮泡殿大乳をい見をる正親町大納言ぬえ領所のあゆ大すき泡のゆ多みて内々下されは
- 一 寂靜院泡妙染院ぬえゆ下されは

九日

- 一 湯拜有傳奏より來る十一日繼代儲君泡親王宣下仰出されはに付關東え十一日女房奉書出されはよし伺有はへとも焼失ふてゆふのりりふを傳奏衆にてもあり申されと申入の
- 一 准后泡若宮泡殿え見分は新大すきをぬふ大乳宮泡の若ましゆもつをる
- 一 今晚御くし前をぬ
- 一 儲君泡乳人へ仰附のし前を銀三枚織すは小袖下されは是ハふ今折ふをのし出來不申口上にて被下は
- 一 祐宮泡非常附使番兩人の所此度めて度さ附今兩人三澤右近番長白川雅樂長井奉膳峯大藏少丞仰附の也伺有伺之通りト仰出されは
- 一 今日めて度事付大乳より切むふ二そこ鯉一折きん上申は
- 一 准后泡え切むふ一そこするは一折上る使ハ局物にては盃一献者はさ

うつさ大乳下され申口にて大すき泡初切むき鯉吸出る

十日

一 滂拜有

十一日

一 滂所ゆめて度事ニ附准后泡え泡丸すゝし泡さき帯一すし八米十石^{木カ}手形^カう返し泡扇者使長橋泡あふ泡重ふくゆへ少將内侍泡^カ系りそへ使右京大夫者

一 敏宮泡え泡はえし一疋^カ本んめし泡桔梗^カりふひふ紅葉ニ秋草う返し泡扇者

一 和宮泡え泡はえし一疋^カ盆めし泡地白^カそく入折枝物之^カ多く料銀十枚う返し泡扇系る儲君泡え泡絹一疋八米十石^{木カ}の^カ手形^カ使少將内侍泡

一 若宮^カ殿す^カ會^カの^カ間^カニ^カく^カ祝^カ酒^カ引^カ二百疋被下^カほそへ使え泡乳人^カ盆^カ引^カ百疋戴申^カさま^カ本^カん^カめ^カし^カ泡地白^カりふひふ折枝物

一 参善宮泡え泡はえし一疋^カ服料者衛門内侍泡え長橋泡^カ口上^カニ^カあ^カ傳へニ成

一 准后泡^カさもし一折十五さし上^カの^カ敏宮泡^カさもし一折和宮泡^カ参善宮泡より同断上^カの^カ長橋泡^カ駿河との大^カ乳よりさもし一折つゝ進上

一 准后泡え泡三頭泡大^カ乳よりさまし一折つゝ上るそのまゝ^カ返し戴^カ儲君泡^カ礼ニ成^カふ^カせ^カの^カ所^カ少々^カり^カを^カ心^カ泡^カて^カ不^カ系^カ断^カ仰^カ入^カの^カ夕^カり^カの^カ盃^カ三^カ間^カて^カ七^カ献^カを^カ五^カ献^カニ^カ重^カの^カ

一 准后泡^カ出座女中^カ通^カり有^カ重^カふ^カの^カり^カの^カ出座無^カい^カさん^カ大^カす^カき^カ泡^カ手^カ長^カ橋^カ泡^カ役^カ奏^カ大^カ乳^カニ^カ二^カ献^カめ^カより^カ男^カり^カの^カ免^カし^カ泡^カする^カと^カ濟^カの^カ

申口にて三仲間え大乳盃致^カ

十二日

一 中元の祝儀^カ表^カ内^カ儀^カ口^カ向^カ伺^カえ^カし^カえ^カ下^カされ^カ

人脱カ

- 一 儲君泡也まも入五百疋三卿は三百疋伺公五人二百疋非藏三人は百疋つゝ是ハ准后泡の也表にて給りは所也引移り何りくゝ也もやゝゝにて此度ハ涉所也一所ニ大也乳ニ菊の也間ニ給りは口向伺の也ハ儲君泡と成りて也間もあふさく此度ハ祝まハ下され無祐宮泡の時分の也祝儀ハしえ戴ふりまは涉用掛りえも同斷此度久世三位也儀奏常り勢仰附のゝニ附也祝儀三百疋銀十枚下されは和宮泡
- 一 桂涉所也拜借ニ附諸大夫初侍分中え銀十枚末ゝまてハ鳥目十貫文いゝりまは
- 一 敏宮泡輪門泡川原也殿也拜借ニ附也留主居え三百疋下りゝりハ鳥目壹貫五百文戴ふりまは
- 一 關白泡え中元の也祝儀半金一枚也はえし二疋さもし一折系る此也さふし口向より上る
- 一 近衛泡え半金一枚也はえし二疋さもし一折系此也はふし奥にて致は外

ニ毎ゝいゝまの酒上クゝニ附也挨拶ニまはるの也さふし五疋系る此分も奥にて一疋百三十夕程ゝゝ梨の人ハ金千疋大也乳の多ニ帯戴りまは

- 一 有栖川中務卿宮泡え祐宮泡也手習ニ附也祝儀銀五枚也はまし一折系る鳥丸ゝえ銀三枚ト也はえし一疋被下は微妙覺院泡
- 一 敏宮泡也世話ニ付銀五枚諸大夫初銀十枚おくの也多にて出る大也乳方諸大夫初ハ多みニ帯出る
- 一 龜の司入道准后泡え也先例ハあふさく此度ハへともなりくゝ關白泡を也つと先遊しはゆへ此度也思召泡にて當盆方本ん暮に銀三枚夏ハ也はらし一疋冬ハ也きぬ一疋クゝ様也治定ニ帯あふさく
- 一 儲君泡上臈四辻ゝももし泡今日めて度也上りニ帯也名を高松泡ト也戴ニ帯也礼也申入今日まくに也あふさく有御所也經供一多ゝもむ一折進上こあふより也返し金三百疋被下は是まてゝ宮泡え上臈代ニ也系りゆへ

外に銀三枚おりすしは小袖被下は

一は三頭泡駿河な大は乳はこむくは一多さつゝ被下は

一宰相典侍泡初え二桶を申口え出る此こむくは宰相典侍泡家は局は
廻し申ははあちえ

一は三頭泡駿河との大は乳より

一嶋縹子のおもし附帯かとある宰相典侍泡初方は肴一折は送り之敏宮
泡和宮泡孝宮泡えこむくは一多さつゝははしは進上は返しにはあ
二ゆひつゝ被下は

十三日

一泉山えは代香は表よりは香はそあ旨

十四日

一儲君泡より盆のは祝儀仰入のゝ二種一荷は目録書有は内ゝはよあ肴一
折上りのゝは使ゑり松泡こしよまにては系り

一儲君泡は礼に成は口祝は祝は重肴にて旨はく和し出るあふりははこあ

生は文附は焼燈五そりえんをのゝ高松泡は乳人は若ましゆは供之ゑり
松泡申口くはのは問にては口祝は祝酒出るはく和しも出るは乳人ゑこ
あさこつとめのは人ゆへ申口れりさへきこのはえんさしゑるは口祝
は祝酒はく和し被下は

一若ましゆハ例え通り申口下ゑる口祝は祝酒はく和し戴りせは

一十四日本んのちさゝゝ新すき泡おくは泡少將内侍泡新内侍泡今茶なは
兒は兩人よりは焼燈五そり進上右えりさゝゝは袖入ふはあんさし被
下はは兒は兩人えは硯ははさんちやく日茶豊岡なえは煙草入ゑ焼物
水入被下は

一新すき泡は初が大すけ泡初をやそろおりへの露おもふい申は儲君泡准
后泡えは礼に成ふせのゝは口祝は祝えんをのゝは焼燈えんをのゝ
一敏宮泡和宮泡えは焼燈五そり別ゑ正座ゑそり旨孝宮泡えは焼燈五そ

り宮泡りさよりむさい一そこつゝ上クの

一夢参宮泡今日此祝儀膳の此もれせんよ岩倉ぬのなもし泡頼る此祝儀二百疋下されぬ

十五日

一朝此盃者系賀此對面成准后泡方そ此の此膳此そへ肴二種一荷此目錄書

二此上クのの外こさもし一折此内此よを肴五種此焼燈五そり上クの

一此所方ハ今日ハ儲君泡准后泡ええんをぬ物ハあふをぬ

一妙勝定院泡方こんぬ一折上クの織君泡より此祝儀仰入ぬ

一敏宮泡和宮泡方むさい一そ宛上クの靈りんしの宮泡瑞龍泡より此

祝儀仰入ぬ仁門泡方此祝儀仰入ぬ知泡聖門泡座主宮泡より同斷長

橋泡方そ此の此膳此そへ肴進上大此乳方同斷上る聖門泡此不系此乳系

の此扇一箱上クの

一此三頭泡今系ぬ駿河との此大此乳扇下されぬ此兒日系え同斷者此乳

は申口にて口祝儀祝儀くふし被下ぬ此認ハ此多く所を戴さりをぬ

一輪門泡方こんぬ一折つゝ進上

一申刻ころそ此の此をんを此盃者別段長橋泡大此乳え此盃被下ぬ

一こよひの此盃此三献者二こんめより此表え召ぬ此三こんめ天酌之女中

男りさ此通り有そ此のこん計ハ此さいせん此手ある掛帯て奏ハ心とへ

衣著用之今晚尾張初茶阿初掛むしろにて盃有酌大此ちくむる局初出ぬ

一こよひのそ此の此こん明朝白川ぬえ系り此由を此毎年月水もこハりり

清く致置ぬへとも今年ハ長橋泡此重多くにて此手あるを此系りゆへ今

年ハ出シ申さばと申入ぬ誠ニ此内儀心ね不申そしめて承りぬ

十六日

一今日此燈籠此もかくそり

一上涉靈社えをたさい櫻 壹

一下涉靈社え同斷梅 壹

- 一 北野社え同断はし 壹
- 一 太田社え小をたさいふたん 壹
- 一 赤山え同断 壹
- 一 所門^カえ同断 紅梅
- 一 ミぬ地藏は花桶 壹
- 一 柴室山え花生 壹
- 一 今年よりなり橋は願こそはそありこは戴ま成
- 一 准后は儲君は敏宮は
- 一 和宮は孝宮はえ花一筒は人形一宛關白は入道准后はえ仁門は聖門は座主宮は靈りんしの宮はえ花一筒は
- 一 關白は初ハ人形無は内へのはみそ出る附武家兩人え花一筒は人形ふへ被下は大きき初は花はくそり人形も戴まはるとひはハ無竹田不とふ院より昨年願こそはそか出されはへとも今年ハ出されは

は残りのは花は人形尾張初え戴りまは夕方は桃燈ともる今日ハ膳は辨當
 一 准后はもは弁當女中一統持寄有大文字ともる

十七日

一 湯常は殿此程の風にては屋根はふんしに成は學問所えは所りへと成クは
 ありくはすゝのは通りと表え仰出されはるを渡成は様仰出され

十八日

一 湯靈社は出祭りニ附准后はえは拜ニ成ふまのニ附はよを肴一折上クは
 儲君は方もはよを肴一折五種上クは申刻頃は内へは拜ニ成ふまの
 准后はえは花生は薄板一枚系る儲君はえ三折は紙入一ツは筆りき人
 形とりの子千代紙よつゝミは手つり系る
 一 桃燈は覽ニ入クは准后はも同断は一こん者女中一統は前こそは一
 こん戴は見まの物色々上クは大きき初は心々戴は

十九日

一 儲君の乳人與所勤く人ゆへ是まての黒多坊のをやう打用カ持意用カはてよろしく用節ハ附奉へ小間使用カをよろしくと治定を口向えも長橋を仰出され

一部屋ハ准后の上臈の部屋一々ん福を所え明日を引移り成は是まての局え渡は道具脱カ其ま被下は局初是まて奥え参り人ハ仕舞戸まて参りてよろしく奥ハ系ふぬるよろしく是より出来人々を系り事ふはと長橋を申渡成

廿日

一 涉拜有

廿一日

一 涉拜有内侍所法樂有也小座敷を讀上ケ有出御あつせの

廿二日

一 涉拜有内侍所え當月の系り有也つ本銀一枚を表明渡はたうしも出来白川を清あつせもすみ事言上

廿三日

一 涉常殿の屋根は修ふく付巳刻前表よろし事言上

一 午刻過也學問所え劍聖をかしし出涉成は表えはするくと學問所えは所うつされは事仰出されはよく入入込申は今日か五日の間り、ま由申入の表え水せんまき十把ふめん兩役あつせ近習修理しま奉行と申出しは大事は品は残しと相成はゆへは學問所は常は殿と兩方ハ夜分ハるすみ申は三仲間も同斷

廿四日

一 今日大すき初局の桃燈を覽あつせを右ハ附は肴三ツは吸物一ツはく和し一多上る是ハ尾張え頼申は初夜比は覽成大すき新大すき長橋大乳見あつせのし取上る准后は敏宮和宮は儲君は参宮はえきん

上致し

- 一 准后泡方女中え千疋被下し
- 一 入彦成ゆくし女中一統え被下し大すき泡方ゆくし新大すき泡方居る
- 一 大い乳方すの物出しし
- 一 准后泡方彦所りへ中彦機嫌伺クゆよを肴上ク

廿五日

- 一 此屋根此修ふく天氣にてはへそ廿六日中み出来雨天にてはへそ廿七日
- 一 なるまで出来のよし申入有右ニ附入彦の所廿七日巳刻ト仰出されし
- 一 清拂の事伺有はへとも此屋根汁の事ゆへ夫ニハおよそさくはと
- 一 仰出されし

一 儲君泡方此所りへ中彦機嫌伺クゆよを肴五種上ク

- 一 佛華光院宮泡昨日今日にゆ一めぐりゆ引上ケニ附關白泡中納言中將泡
- 一 よりまた一折つゝ進上

廿六日

- 一 今日此代香宰相典侍泡此香此そあ此備へのゆくし有
- 一 佛華光院宮泡ちあゆ一めぐりニ成クゆ今日此引上ケニ附此席
- 一 此代香此勤此香此花此備へのゆくし有此法事料ニ白銀十枚此備へニ
- 一 銀五枚出る是ハ前日ニ取次え出し大すき泡新大すき泡長橋泡大い乳
- 一 より此香てんニ金百疋つゝ上る金五百疋按を掃のすき泡此初駿河との
- 一 より此香てん上るゝ新すき泡新内侍泡今系えハ此馴染かくゆへ上
- 一 此此さき札ニ局を認さされ大すき泡の此局より出る
- 一 准后泡えゆくし一折十棹旨
- 一 關白泡えは杉折ゆくし一箱系る敏宮泡和宮泡より此組合にて此内
- 一 のゆくし上ク
- 一 女中一統より水せんまん三十上る觀行院泡此初知光院泡此初より水を
- 一 んまた七把進上